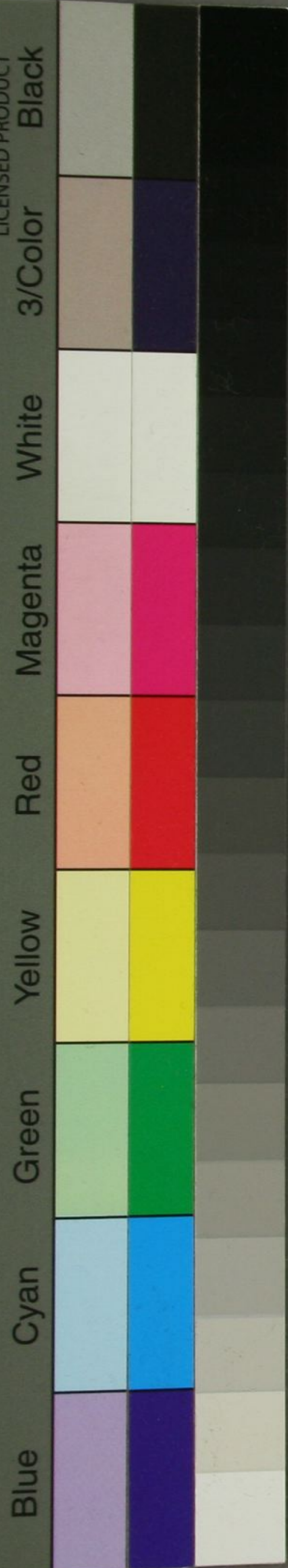


NODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT



法理原論

吉本達著

人

1

和装本

71
931
3



保
93
西哲

醫學博士
圖書
第三卷



原論卷之三

刑事

第二十三章 總論

西哲曰法ヲ知ルハ法ヲ守ルノ本ナリト蓋レ國ノ治安ハ其

吉本達
編



民能ク法ヲ守ルニ在リ民能ク法ヲ守ルハ法ノ民ニ利アル
ヲ信スルニ出ツ法民ニ利アルヲ信スルハ法ノ旨意ヲ知ル
ニ源ス吾輩人民ハ我政府ノ法ヲ遵守スルノ義務アレハ豫
メ其本義ヲ辨知シテ己レヲ利アルヲ信セサル可カラサル
ナリ夫レ刑典ハ人ノ身体ト財産ト推義トノ三ヲ保護スル
最モ切要ナル所ノ律法トス故ニ吾輩人民ノ最モ慎テ遵守
ス可キ者タリ而シテ最モ詳ニ其法旨ノ在ル所ヲ講究セサ
ル可カラサル者トス

刑ナル者ハ人間社會ト其起原ヲ一ニスルモノニテ草昧混
沌ノ世ト雖氏自ラ懲惡ノ法アリシナリ故ニ人アレハ刑ア
リト云フモ可ナリ然レ古今自カラ刑罰ノ有様ヲ異ニシタ

ルハ畢竟其主義トスル所ハ相異ナルニ由ルナリ在昔ハ刑
ナル者ハ復讐ノ爲メナリト思ヒシモ幾多ノ變革ヲ經歷シ
テ遂ニ今日ハ国家治安ヲ保全スルノ主意トナレリ蓋シ其
主義奈何ニ從テ刑ノ性質寬嚴ヨリ其執行ノ方法マテ自ラ
關係アル者ナレハ最モ此點ヲ講明スルヲ要ス
刑ハ罪惡ヲ懲罰スル者ナリ罪惡トハ何ソヤ道德上惡トス
ル所罪惡ト爲シ以テ刑ス可キカ曰否國家一般ノ害トナル
所之ヲ罪惡トセンカ曰否此ニ善惡ハ惡ナリト雖氏未タ以テ
刑ノ問フヘキニ非サルナリ道德上惡ト事ニシテ兼テ国家
一般ノ公害タルノ事ノミ實ニ罪惡トシテ刑ノ問フ所ト爲
ル可シ故ニ道德上ヨリ見テ惡タルヲ免レサル者刑ノ問フ

所ト爲ラサルアリ是レ未タ社會一般ノ公害ヲササルニ依
 ル而シテ社會ノ公益上ヨリ見テ害アリトスル者ニシテ刑
 ヲ科セル者アルモ亦此理ニ依ルナリ、道德上ニ於テ惡タル
 ヲ免レサル者社會ノ公害ヲササルヲ以テ刑ノ問フ所ト爲
 ラサルハ何ソヤ若シ單ニ道德上ノ惡ヲ以テ罰スルモ其
 弊ハ道德上日用行爲ノ微密ヲ侵シ民際意想ノ自由ヲ妨ク
 ル者アルヲ免レズ終ニ宗教上ノ法則ト相似ルニ至ラン是
 レ公害アルヲ待テ始テ法ノ問フ所ト爲ル所以ナリ又社會
 ノ公益上ヨリ見テ害アル者道德ヲ侵サズルヲ以テ其刑ヲ
 免ル、ハ何ソヤ社會ノ制度未タ完全ナラス或ハ正理公道
 ニ照シテ相背ク者アルヲ免レズ隨テ刑賞ノ法典歷代ノ制

度ト共ニ變轉常ナキヲアラン故ニ萬世ノ公道ニ照シテ刑
 ノ問フ所ト爲ルト否トヲ判スレハナリ是レ歐米諸國刑法
 ノ主義トスル所ナリ
 然レモ此說ハ刑法一般ノ論ナク其罪ノ輕キ者ニ至テハ或
 ハ此原則ニ據ル可カラサル者アリ違式註違ノ如キ是ナリ
 其罰スル所道德上ヨリ見レハ惡クテササル者アリト雖モ警
 保上ノ特別ニシテ蓋シ已ムテ得サル者アレハナリ
 刑ニ死刑アルハ猶罪犯審問ノ法ニ拷問ゴウモンアルガ如キ歟ヲ拷問
 見合スヘシ抑刑ナル者ハ人ノ罪惡ヲ懲ス所以ナリ懲ルト
 ハ何ソヤ曰ク犯人惡事ノ罪業タル罪業ノ畏ルベキヲ知リ

第二十四章 死刑ヲ論ス

テ之ニ懲リ之ヲ悔ニ善道ニ復歸スルナリ刑法ノ目的宜レ
ク此ノ如クナルベシ然リ而レテ死刑ハ苟モ之ヲ施行スレ
ハ則人命ヲ絶ッ豈之ヲ懲悔ノ怯トスベケンヤ縱令其人懲
悔スル所アルモ其人己ニ死シテ其心魂其体ニ在ラズ之ヲ
奈何ノ善道ニ歸レ善行ヲ人間ニ脩ムルニ由アラシヤ故ニ
死刑ハ刑ニ非ザルナリ
或曰ク死刑ハ一人ヲ刑シテ千万人ヲ懲スナリト抑我邦人
口三千餘万年々死刑ニ処セラル、者概スルニ千人少シト
セス蓋シ數百十年之ヲ懲ラレテ未タ曾テ懲リザル歟然リ
而レテ歐米各國ヲ合スレハ其人口固ヨリ我ニ數倍セリ其
死刑ニ処セラル、者ハ數國ヲ合レテ一歲僅ニ數人ニ過キ

ス何レソ兇惡人ノ我ニ多クシテ彼ニ少キヤ蓋シ刑律ノ彼
此同シカラス死刑彼ニ少ク間或ハ全ク死刑ヲ廢シタル國
アルト又所謂開化ノ度同シカラザルニ因ルノミ
復讎ハ古來之ヲ善事トセリ我邦維新以前迄ハ君父ノ讎ヲ
復スル者ヲ稱賛レテ之ヲ義者
ト云然レ氏決シテ善事ニ非ズ却テ大惡事ナリ國家今日謀
殺律ヲ以テ復讎人ニ當ス慘酷ニ非ルナリ復讎ハ實ニ百方
謀構讎人ヲ殺スナリ故ニ復讎ハ改定ハ吾人慣習ニ依リ或
ハ之ヲ論駁スル者ナシトセズト雖氏間然スベカラザルナ
リ但文明開化能ク復讎ヲ嚴禁シテ猶此死刑ヲ存ス余カ解
スルヲ能ハサル所ナリ蓋シ復讎ヲ禁ジテ死刑ヲ存スルハ
猶酒ヲ禁シテ之ヲ罰スルニ酒杯ヲ以テスルカ如キ歟

或ハ曰ク刑ノ主旨ハ吾人同社ノ害ヲ除ク所以ナリ故ニ暴
 悪ノ人ハ之ヲ殺レテ以テ吾人同社ノ害ヲ除クナリト此言
 理アリ然レ氏能ク此主旨ヲ達スヘキ者死刑ヲ除ク他ニ求
 ムベシ所謂流刑ナリ而シテ流刑ハ却テ毒ヲ他邦ニ移ス我
 ニ利アリト雖氏隣国ニ害ヲ加フルノ虞アリ行フベカラス
 蓋能ク刑ノ主旨ニ適レテ施行スヘキ者ハ唯徒刑若クハ懲
 役アルノミ
 尚書ニ曰ク刑ヲ無刑ニ期スト其旨趣善美ナリト謂フヘシ
 然レ氏能ク之ヲ空言ニ論スベクシテ未タ之ヲ實地ニ施ス
 バキヲ知ラス余ハ則刑ヲ死刑ナキニ期ス然レ氏歐米文明
 ノ各國死刑ヲ廢スルノ説出テヨリ既ニ百年彼ニ在テモ未

ク全ク行ハルニ至ラズ矧ンヤ我東方ニ於テヲヤ蓋唯之
 ヲ將來ニ期スルノミ分ト虽氏未タ死刑ヲ廢セス重罪ヲ
 囚獄ノ刑徒刑場内ニ於テ使役スルノ刑追放ノ刑公權剥奪
 ノ刑是ナリ而シテ前六刑ハ施体ト加辱トヲ兼テ未ニ刑ハ
 加辱ノ刑ナリ

第二十五章 拷問ヲ論ス第一

天下ノ惡拷問ヨリ慘ナルハナシ古今ノ害拷問ヨリ毒ナル
 ハナシ夫罪犯ハ固ヨリ暴惡ナリト雖氏亦一匹夫ノ檢官
 帝命ニ據テ之ヲ捕縛シ法官政威ヲ逞シテ之ヲ推鞠ス
 貴賤懸隔權柄夔カニ殊ナリ縱令絶テ拷問ヲ用フル無キモ
 匹夫賤劣威嚴ニ懼伏シ心膽轉倒其理ヲ伸スルト夫ノ民法
 ノ訟庭ニ於テ原被告人互ニ其權利ヲ主張スル尤明白ナル

カ如キヲ能ハズ動モスレハ冤屈ヲ免レ難シトス然ルヲ况
ンヤ拷問ヲ用ヒテ之ヲ強服セシムルニ於テヲヤ
或曰ク若シ拷問ヲ用ヒテ強ヒテ之ヲ推鞠セハ勳奮相將モ
我之ヲ有罪ニ陷レンコト掌ヲ反スヨリ易シト嗚呼怖ルヘキ
我拷問ノ害ヤ故ニ人ノ曾テ罪ナキモ一旦法司ノ疑フ所ト
爲ル時ハ執ヒ遂ニ冤罪ニ屈セザルヲ得ス蓋シ拷問ノ苦堪
フミカテハ常人ハ乃チ思ヘラク其拷問ニ苦シマシヨリハ
寧ロ冤罪ニ死セント嗚呼慘ナル哉拷問ノ害ヤ
吾地球ノ至高峯ヲ雪山ト云フ亜細亞ノ中央ニ在リ此山ヨ
リ南西ノ民ヲ印度日耳曼人種トス西海ヲ踰テ阿美理駕ニ
至ル此山ヨリ北東ノ民ヲ蒙古支那人種トス東海ヲ隔テ、

米利堅ノ土人蓋亦此人種ノ变种ニ属ス方今日日耳曼種ノ國
ニ拷問ナシ蒙古種ノ民ハ概スルニ拷問ヲ免レズ嗚呼雪山
何ノ山ゾ此一大區畫ヲナス同シク此地球ノ人ニシテ何ソ
ゾ日耳曼種民ノ幸ニシテ蒙古種民ノ不幸ナルヤ而シテ印
度諸島ノ民ハ所謂麻来人種恐クハ又蒙古種ノ变种ナリ彼
等方今英蘭各國ノ所轄ニ属シ亦拷問ノ厄ヲ免ル阿非利加
ノ民ハ所謂黒種ナレトモ亦歐米諸國ノ管轄ニ属スル者ハ亦
拷問ヲ免ル豈是人種ノ然ランムル所カ曰ク否智識開明ノ
致ス所ナリ
拷問ノ害天下古今之ニ比スベキナシト然ラハ則拷問果シ
テ廢スベカテザル乎曰ク否拷問廢セバソバアルベカラサ

ルナリ拷問ヲ廢セズンバ歐米各國ト車ヲ並テ馳騁スベカ
ラザルナリ拷問ヲ廢セズンバ彼是同權ノ條約ヲ結フベカ
ラザルナリ拷問ヲ廢セズンバ歐米各國民ノ其国内ニ居ル
者ヲシテ其法律ノ下ニ置クベカラザルナリ
夫レ罪人ハ概スルニ惡人ナリ惡人ノ惡ヲ掩ヒ刑典ヲ遁レ
ント欲ス是其常情トリ故ニ口供實ヲ得ント欲ス亦甚ク難
カラズヤ縱令罪人ナリト雖モ一旦悔悟自首スレバ其罪ヲ
減免ス蓋シ萬國ノ通法ナリ故ニ罪人推問ニ因テ實ヲ供シ
既ニ悔悟スル所アレバ亦其罪ヲ減免スルモ理ニ於テ不可
ナル所ナレ故ニ褻被懺悔善ニ歸スル者ヲ宥免スルハ各國
ノ神道佛乘ニ於テ取ル所ナリ然レモ其之ヲ國法ニ推及シ

難キハ論ヲ竣タズ然リト雖モ今惡人ニ責ルニ善人ノ心術
ヲ以テ之ラシテ強テ首供セシメテ以テ之ニ刑戮ヲ加ヘ
ント欲ス抑亦何ノ義ゾ是雪山以西ノ人種ノ雪山以東ノ法
律ニ服スルヲ肯セサル所以ナリ
罪惡既ニ証明ナレバ之ニ刑ヲ加ヘテ可ナリ彼惡人死シテ
黃泉ニ到リ或ハ地獄ニ墮ツ惡人ノ首供スルヲ要セス是教
法上臆想ノ事ニ屬スト虽モ今之ヲ治刑條例中ニ採取セン
モ亦不可ナリトセズ況ンヤ歐米各國ノ通法ニ於テラヤ
証左ニ拠リテ曲直ヲ判スルハ民法裁判ノ通法ニシテ我邦
ノ應訟舊法ノ如キモ歐米ノ新法ト大ニ逕庭アルヲナレ抑
原被告各其非ヲ掩ヒ其理ヲ陳ス加フルニ^{チガヒ}代理人之レヲ

脩飾ス只其言ヲ信セハ何レカ曲何レカ直聽ク者豈惑ハサ
ランヤ証左ニ拠ルニ非ズレテ何ニ由テ裁判公平中正ナル
ヲ得ンヤ然ルニ治刑ノ法ニ至テ專ラ証左ニ拠ラス縱令証
左ノ明確ナルアリト雖モ罪人ノ口供ニ拠ルニ非サレバ其
罪ヲ定ムベカラズトセハ豈不通ノ習慣法ト云サルヲ得ン
ヤ乃チ此不通ノ習慣法ヲ以テ自由ノ國民ト同權ノ條約ヲ
締立セントスルモ亦難イ哉
或問テ曰ク罪人ノ口供ヲ要セス專ラ証左ニ據リテ處決シ
万一証左誤ルヲアル時ハ奈何曰ク彼ニ於テハ獨民法裁判
上ニ於テ所謂控訴アルノミナラズ刑法裁判上ニモ亦控訴
法アリ罪人一度處刑ノ行告ヲ受ケタル後其罪ニ服セザル

所アレバ其々時限内ニ於テ更ニ上等裁判所ニ控訴スル
ヲ得ベレ是司法官吏万々過誤ヲ豫防スル所以ニシテ縱
令証左誤マルトアルモ覆審ニ因テ明白ニスルヲ得ベキ
ナリ吾邦ノ如キモ已ニ刑
或曰ク拷問ヲ廢セザレバ自由國民ト同權ノ條約ヲ結ブ
カラザルトハ既ニ命ヲ聞ク然レモ拷問ヲ廢セズバ歐米
各国ト車ヲ並マテ馳騁スヤカテト謂フルハ解スヤカテ
又東洋諸國ノ歐米各国ト拮抗スベキハ專ラ人民ノ文化ト
政府ノ兵力ニ關スルニテ拷問ノ有亡ニ係ハルヲナシ曰
ク人民ノ文化果シテ進スレバ拷問等ノ惡法跡ヲ窺レテ
逸去セシテ論ヲ竣タズ縱令兵力強ナリト雖モ野ヲ轉シテ

文^上爲^レサバ猶拷問等ノ惡法ヲ墨守シテ移ラザル時ハ歐米
各國ト車ヲ並マテ馳騁セント欲スト雖^レ氏彼豈之ヲ首肯セ
ルヤ
或又曰ク只管証左ニ由テ人ヲ罪スルニ於テ若^レ証左ヲ缺
時ハ罪人或ハ僥倖ニシテ刑ヲ免ル可ナラソ乎曰ク或ハ歐
洲ノ法學士曰ク縱令百罪人ノ僥倖ニシテ罪ヲ免ル者ア
リトモ一無辜ヲ罪スル^レ勿^レト古ノ文那人ノ曰ク其不辜
ヲ殺サンヨリハ寧^レ口無^レ証ニ失セヨト此言以テ証左ニ由ル
ノ非ナラサルヲ知ルヘキナリ

第二十六章 拷問ヲ論ス第二

或曰ク曩ニ吾政府ガ口供甘結ノ律ヲ廢シ之ニ代ルニ斷罪

依証律ヲ以テスルヲ令セラレタルノ日ヨリシテ拷問ノ
舊慣ハ全ク其跡ヲ法廷ニ絶タルヲ證スルニ足レリト然レ
氏此法制ハ未タ以テ拷問廢止ノ令ト認ムベキニ非ザルナ
リ或人ノ言ノ如ク何ニモ斷罰依証律ヲ制定セラレテヨリ
今日ノ刑事ノ法廷ニ於テハ拷問ヲ用イザルニ相違ナケレ
氏其之ヲ用ヒザルハ罪犯ノ口供甘結ヲ要セザルニ付キ實
際ニ於テ拷問ヲ用キルヲ要セザルガ故ナリ決シテ法禁ニ
於テ之ヲ行フヲ得ザルガ故ニ非ザルナリ然^レ而シテ今日
ヨリ顧想スレバ拷問ハ容易ク之ヲ輕罪違警罪ハ招承ノ如
キニ用キタルニハアテサルナリ寛政律^{寛政二年當時ノ}奉行等カ松平越中
守ノ命ヲ奉シ元文五年制定ノ民ヲ閱スルニ曰ク
刑法ヲ改正シタルモノナリ

拷問可申付品之事

一人殺 火付 盜賊 関所破 謀書 謀判

右之悪事を致し證據慥不候へども白狀不致及ぶ共同類の者有之白狀不及び候へども當人白狀せざるは拷問可申付

一詮議の決せざる内不外悪事明白不相知せ候り共科みく死罪不行ふべく右の外も拷問可申付品も有之候は其節評議の上可申付事

但拷問の節立合のり純差出し吟味の様子申事得と承届り様可申付事

又享保七年壬寅四月ノ御書付ニ云ク

總て拷問申付候儀ハ人殺或ハ火付盜賊と申様の類畢竟死罪不行りれハ科の未と相決せざる節の儀不付輕き科人白狀のりさばとて拷問不及ぶ間敷候重き科人ふても證據無之猥不拷問申付間敷ハ依之拷問可申付品々左の通ふ被仰出候

一悪事いこ候證據慥ふても白狀不致もの事

一同類のもの白狀いこ候とも當人ハ白狀不致もの事

但指シ口をくりみて證據無之もの拷問申問敷事

一僉儀有之科り未決候へども外悪事有之分明不相知れ其死罪不行りさばともの事

右の外より事品より拷問を申付然るべき趣候ハ
奉行中相談の上可被申付事

右ノ律文ヲ以テ當時ノ拷問ヲ用イル所ハ其重罪ヲ犯シ賊
證明白ナルニ招承ニ服セサル者ヲ拷訊スルニ出デザルヲ
知ルベシ然ルニ今日ノ頻ニ法律ノ改進ヲ主旨トスル世界
ニ移リ來リナガラ此ノ忌避スベキ拷問ヲシテ設ヒ其跡ヲ
法廷ニ絶ツモ之ヲ警察ノ治罪上ナドニ絶ツテ得ザラシ
メ却テ輕罪違警罪ニモ及ボス事アラシメハ豈之ヲ昭代ノ
瑕瑾ナリト云ハザル可ケンヤ訊杖ヲ以テ罪囚ノ醫腰ヲ交
打スルノミヲ以テ拷問ト限
ル可カラズ或ハ手ヲ以テ其頰ヲ批チ或ハ棒ヲ繩ノ間ニ挿
テ締上ゲ或ハ恥承セザルノ故ヲ以テ拘留シ或ハ辱身ノ所
爲ヲ施シ或ハ罵詈凌辱ノ耻辱ヲ與ヘ或ハ威迫ノ糾問ヲ成
ス等ミナ認メテ拷問ノ一部トセザルベカラス

第二十七章 數罪俱發ヲ論ス

數罪俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ各等キハ一ニ
從テ科ストハ是レ我邦ノ刑典ニ於テ明カニ定ムル所ニシ
テ清國其他東洋諸邦ノ法律概テ皆然ラサルハ莫シ今眼ヲ
轉シテ歐洲ヲ見ルニ各國其制ヲ異ニシ區々一ナラス或ハ
我ト同ク或ハ我ト同カラス其學士論者ノ説モ亦數派ニ分
レ現ニ未ダ一ニ歸セサルカ如ク容易ニ其利害得失ヲ判ス
ル難シト雖モ聊カ論セント欲スルナキニアラサルカレ
羅馬法ニ據ルニ數罪俱ニ發スレハ各自ニ其刑ヲ科シ決シ
テ重キ者ニ從テ論スルヲ許サス佛國中世ノ法モ亦此制
ニ模擬シ敢テ之ヲ變セザリシカ千七百九十一年ニ至リ萬

機更始此舊法モ亦廢滅ニ属シタリ其新刑典第七卷第四十
条ニ曰ク公訴状ニ記載シタル犯罪確實タルノ申立アリタ
ル時ハ辯論ニヨリ發覺シタル他ノ犯罪ニ付キ更ニ公訴ヲ
爲スヲ得可シ然レモ其刑前發ノ刑ヨリ重キ時ニ非レハ
之ヲ科ス可カラスト是レ後發ノ罪輕ク若クハ等キ者ハ之
ヲ論セサルノ制ヲ立タルナリ又革命四年頒布ノ法ニ据ル
ニ辯論中被告人ニ對シ餘罪發覺シタル時ハ裁判所ヨリ更
ニ之ヲ訴ヘシム可シ但シ其刑前發ノ刑ヨリ重カル可キ時
ニ限ル可シト云ヘリ之ヲ前法ニ照スニ大ナル差異ヲ見ス
ト雖モ後發ノ刑前發ノ刑ト相等キカ若クハ輕キニ於テハ
帝ニ之ヲ罰セザルノミナラス公訴ヲ起スヲモ許サ、ル

ニ至リテ全ク其歸ヲ同フセサルナリ以上二法共ニ辯論中
發覺シタル餘罪ノ処分ノミヲ定メテ一語ノ辯論前發覺ノ
場合ニ及フモノナシ現行ノ治罪法ニ据ルニ或ハ辯論中餘
罪發覺スルハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル後更ニ之ヲ訴フ可
キ旨ヲ言渡スト云ヒ第三百六十一条或ハ辯論ニヨリ發覺
シタル重罪公訴ニ係ルモノヨリ重大ナル刑ニ該ル可キイ
ハ更ニ之ヲ訴フ可シト云ヒ第三百七十九条而シテ其第三百
六十五条ニ於テ數箇ノ重罪又ハ輕罪アリトスルキハ其最
重ノ刑ノミヲ言渡ス可シト断定セリ故ニ身數罪ヲ犯スト
雖モ常ニ其中最重ノ刑ヲ受ルニ止リ又或ル場合ニ於テハ
各自ニ公訴ヲ受ケサルヲ以テ制トス余輩常ニ異ハ法律周

密理論精確ノ聲譽アル佛国ニ於テ定ムル所何ヲ以テ此ノ如クナルヤ

夫レ罪アレハコ、ニ刑アリ刑ハ罪ノ爲メニシテ設ク已ニ罪ノ爲メニ設ルモノタラハ則チ其罪幾許アリト雖モ必ラスヤ各自ニ之ヲ科セサル可ラス其数罪ヲ犯ス者一人タリト云フヲ以テ此原則ヲ用キサルノ理ナシ蓋シ一人ニシテ一罪ヲ犯スハ猶ホ恕ス可シ数罪ヲ犯スニ至ツテハ嚴ニ之ヲ罰セサル可カラス縱令刑ヲ加ヘ将来ヲ戒ルヲナカリシト雖モ^{カウネイ}廣^ラ擯^{ホウ}梟^{ホウ}惡罪ニ慣レテ法ヲ衰レス復タ容易ニ其^ク改^クヲ望ミ難シ且ツ社會ヲ擾乱シ公衆ヲ損害スル豈一罪ノミヲ犯スノ時ト同シカラニヤ余輩試ニニ問ハシトタヒ某

罪ヲ犯シタル者ト数回ニ及ヒタル者ト其間毫釐ノ差異ナキヤト三尺ノ童子猶ホ容易ニ之ヲ判ス可シ若シ法律ニシテ全ク此原則ニ反シ数罪ヲ犯スニ一ノ重刑ノミヲ科スルトセハ則チ何レソ一旦罪ニ陥リタル以上ハ更ニ他罪ヲ犯ストモ其輕ク若クハ等キ者ハ之ヲ罰セス最初ノ犯罪ハ猶ホ後罪ヲ犯スノ免許鑑札ノ如シ此鑑札ヲ以テ隨意ニ其私欲ヲ逞フレ社會ト道義トニ背ケヨト曰フニコトナラスヤ或人之ヲ難シテ曰ク予カ所謂原則ナルモノ亦其失ナキニ非ス罪者死刑又ハ無期徒刑ニ諒ルノ時ニ行ハレサル一ナリ罪質各異ルノ時執行ニ混雜アルニナリ其他一般ニ嚴ニ過ルニナリ之ニ反シテ重キ者ヲ以テ数罪ヲ論スルノ法何

レノ場合ト雖モ執行ス可カラサルハナク便ニシテ且ツ寛
ナリ予此法ノ寛ニ過キテ爲メニ弊風ヲ生センコトヲ恐ルカ
如シト雖モ決テ否ラズ佛國ノ如キハ刑ニ上下ノ二極點ア
リ又酌量輕減法アリ我國亦輕減法アリ依テ數罪ヲ犯シタ
ル者ニハ必ス上極ノ刑ヲ科シ若クハ輕減ヲ許サストセハ
則チ寬嚴宜キヲ得テ過不及患アルコトナカラシヤト
クミハカリテカクセルホウ
或人ノ難スルヤ斯ノ如シ其言全ク理ナキニ非スト雖モ飽
クマテモ一ノ重刑ヲ科スルニ止ルヲ可トシ而メ弊害ヲ未
夕生セサルニ防クニハ其刑ノ最上點ヲ科シ若クハ減輕ヲ
許サバルヲ以テ足レリトスルニ至リテハ一擊ヲ試ミサル
ヲ得ス夫レ法律ニ於テ細カニ罪惡ヲ揚ケ各其刑ヲ示シ又

其刑ノ長期短期多數寡數ヲ定メタルハ皆一箇ノ犯罪ニ付
テ之ヲ爲シタルモノトス且ツ立法者初メ法ヲ制スルニ當
リ各罪ノ輕重ヲ鑑ミ各刑ノ長短等ヲ定メタルモ亦一箇ノ
犯罪ニ付キ公衆ノ害ヲ被ル他罪ニ比スレハ如何又孰レ
カ最モ道義ニ反スルヤヲ量度シタルニ由ラサルハナシト
ス果シ然ラハ一罪ヲ犯シタル者ト雖モ常ニ之ヲ上極ノ刑
ニ處スルヲ得可シ是レ法官ノ權内ニアリテ人之ヲ可否ス
ルヲ得サルナリ今或人ノ言ニ循ニ數罪俱ニ發スル者必ス
之ヲ上極ノ刑ニ處ス可シトスルモ只法律ニ定ムルト法官
ニ委ルトノ差異アルノミニシテ其實刑ヲ加重スルニ非ル
ヲ以テ其効用充分ナラス隨テ萬般ノ弊害ヲ醸成スルヤ明

カナリ且ツ法官能ク其人ヲ得ハ則チ法律ニ此制定アルヲ
 待タス必ス刑ノ長期ヲ科ス可シ畢竟或人ハ更ニ徒法ヲ設
 ケント欲スルカ如シ又其減輕ヲ許サ、ルノ說採ルニ足ラ
 ス前途ノ理ヲ推シテ以テ之ヲ知ル可シ
 斯ク論レ來ルト雖モ敢テ偏ニ數罪ヲ犯ス者ニ科スルニ各
 自ノ刑ヲ以セント欲スルニ非ス唯此原則ヲ立テ別ニ變則
 ヲ設ケ寛ニ過キス嚴ニ失セス以テ刑罰ノ効驗不足アルノ
 弊ヲ除去セント欲スルニアリ左ニ泰西諸邦ノ法典二三ヲ
 掲ク以テ其立法者注意セシ所ヲ示サシ
 伊國撒丁ノ法典ニ曰ク被告人數罪ヲ犯シタル場合ニ於テ
 其各自ニ定メタル刑執行スルヲ得可キハ悉ク之ヲ科ス可

シ最重ノ刑ハ他ノ刑ヲ消滅スルヲナレトス第四卷第五條
 西班牙ノ刑法ニ曰ク重罪輕罪又ハ違警罪二箇以上ヲ犯シ
 タル者ハ其各罪ニ適應スル諸刑ヲ受ク可シ但シ第二條第
 三項ニ定メタル規則ニ抵觸スルヲナカル可シ第二條第三
 項ノ規則ト
 ハ即チ法律ヲ適用スルニ當リ明カニ刑ノ嚴ニ過ルヲ知
 ルキハ減等ノ恩赦アラシカ為メ裁判官ヨリ其旨ヲ政府ニ
 報知ス可シト定^レ犯人此等ノ刑ヲ受ルヲ得可キハ必ス
 之ヲ受ク可シ若シ之ニ反シテ其刑同時ニ実行シ難キハ
 先ツ重大又ハ高等ナル刑ヨリ順次之ヲ受ク可シ但シ追放
 ノ刑ニ付テハ此限ニアラス其追放ノ刑ハ刑罰階級圖中第
 一號ト第二號トノ間ニ記載シタル刑ヲ行ヒ終リタル後之
 ヲ執行ス可シ第七十
 六條

白耳義ノ新典ニ曰ク数箇ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ各自ニ
 其刑ヲ科ス〔第七十一〕一箇又ハ数箇ノ輕罪一箇又ハ数箇ノ違
 警罪ト俱ニ發スル片ハ罰金并ニ禁錮ノ刑ハ後条ニ定ムル
 限界内ニ於テノ總テ之ヲ併科ス可シ〔第七十〕数箇ノ輕罪俱
 發ノ場合ニ於テハ各自ニ其刑ヲ科ス但シ其最重ナル刑ノ
 上極點ノ二倍ヲ超ユ可カラス〔第七十〕輕罪又ハ違警罪ト共
 ニ重罪發覺スル片ハ當ニ重罪ノ刑ノミヲ科ス〔第七十〕数箇
 ノ重罪俱ニ發スル片ハ最重ナル刑ヲ科ス若シ其刑徒刑有
 期ノ禁獄又ハ懲役タル片ハ其長期ニ五年ヲ加アルヲ得〔第七十〕
 日耳曼ノ法〔元教堡巴威里亞〕ニ據ルニ数箇ノ重罪又ハ輕罪

俱ニ發スル片ハ其各罪ニ科ス可キ数刑ノ和四分ノ一以上
 四分ノ三以下ヲ最重ナル刑ニ加ヘテ之ヲ科シ又〔葡萄酒ノ〕
 新法数罪俱發ヲ以テ加重ノ模様ノ第一等トナシ其罪數ノ
 多少ニ循ヒ刑ヲ加重スルモノト定メタリト云フ
 以上數國ノ法各差異アリト雖モ皆各罪ニ各刑ヲ科スルノ
 原則ヲ適施センコトヲ勉メ其行ハル可カラサルカ若クハ嚴
 ニ失スルノ恐レアルニ非レハ敢テ變則ヲ設ケサリシテ見
 ル可シ
 夫レ罪過固ト大ナル者刑モ亦至テ重シ故ニ其大罪ヲ犯ス
 者〔數回〕ニ流リ若クハ一回ニ止ルト雖モ別ニ小罪ヲ犯シタル
 者ヲ罰セントスルニ必ス各自ニ刑ヲ科スルヲ須ス一箇至

重ノ刑以テ社會ノ安寧ヲ保障シ以テ道義ノ頽廢ヲ救^ス醫^スス
ルニ足レハナリ之ニ反シテ小罪數箇ヲ犯ス者ハ之ヲ罰ス
ルニ其中最モ重キ刑ヲ以テスルト雖^レ其刑固ト至テ輕キ
カ故ニ常ニ効用ヲ缺クノ憂アリ因テ各自ニ刑ヲ科スルヲ
要スルニ至ル是レ理ノ最モ賅易キモノトス今此理ヲ推シ
テ之ヲ論スルニ宜ク左ノ如ク定ム可シ

第一 數箇ノ重罪俱ニ發スレハ一ノ重キニ從ツテ論シ
若シ有期ノ刑ニ該ルトキハ其長期ヲ科シ尚ホ時
宜ニ依リ四分ノ一ヲ加フルヲ聽シ又法律ニ於
テ已ニ長期ヲ科ス可キノ明文アルキハ必ス此分
數ヲ加フ可シトス

若シ又国事犯罪常事犯罪ト俱ニ發スルハ先ツ
常事犯罪ノ刑ヲ執行シ而シテ其刑期ハ国事犯罪ノ
刑期ニ算入シ^テ剩餘アレハ之ヲ科スヘシトス

第二 重罪ト輕罪俱ニ發スルハ單ニ重罪ノ刑ヲ科シ
餘ハ措テ問ハストス

第三 數箇ノ輕罪俱ニ發スルハ一ノ重刑ヲ科シ尚ホ
其數罪ニ科ス可キ刑ノ和四分ノ一ヲ加フ可シト
ス

第四 數箇ノ違警罪俱ニ發スルハ各自ニ其刑ヲ科ス
可シトス

第五 重罪若クハ輕罪ト俱ニ發シタル違警罪ノ刑ハ他

ノ刑ト併セテ之レヲ科ス可シトス
 蓋シ違警罪ノ刑ハ固ト一地方ノ警察規則ニ違ヒ
 〔吾邦ノ違式〕其他便宜ノ爲メ設ケタル規則ニ背ク
 者ニ當ツ可クシテ其犯者ノ惡意ニ出ツルト過失
 懈怠ニ因ルトヲ問ハス一体ニ之ヲ科スヘキモノ
 ナルカ故ニ重罪輕罪ト全ク其性質ヲ同クセス因
 テ他ノ刑ヲ科スルモ決シテ消滅スヘキニアラサ
 ルナリ
 數罪俱發ヲ処スルニ果シテ此クノ如クナラハ則チ刑罰ノ
 効驗常ニ顯著ニシテ且ト寬嚴宜シキヲ失フノ弊蓋シ之ヲ
 ラサルナリ

第二十八章 國事犯ヲ論ス

國事犯ノ罪人ハ果シテ之ヲ殺スヲ以テ可ト爲ス乎抑モ亦
 不可ト爲ス乎我邦ニ於テハ國事犯ヲ処スルニ死刑ヲ以テ
 スルハ古來ノ遺法ニシテ其習慣ノ久シキ已ニ能ク衆人ノ
 腦裡ニ浸潤シテ文化進步ノ今日ニ於テモ其利害ヲ疑ハザ
 ルモノ、如シ豈遺憾ナラスヤ
 蓋シ古今萬國ノ政府ニ於テ其目シテ以テ國事犯罪ト爲ス
 者及ヒ之ヲ處スルノ方法ハ各々互ニ差異無キ能ハサルナ
 リ史ヲ按スルニ羅馬共和政治ノ初メニ於テハ其政府ヲ顛
 覆セント企ツル者ノ自カテ帝王ニ類以スル權勢ヲ得ント
 謀ル者國敵ヲ援クル者及ヒ軍隊ヲ亡ナフ者ヲ以テ國事犯

ノ範圍ニ入レタリシガ其後又一變シテ國事犯ヲ以テ專ラ
敵ニ内應スル者或ハ兵ヲ率キテ敵軍ニ降ル者士民ヲ煽動
シテ蜂起セシムル者ニ及ホセリ而シテ其已ニ帝國ト爲リ獨
裁政府ガ其ノ權威ヲ擅ニスルニ當テハ國事犯ノ範圍ニ入
ルノ罪科ハ頗ル多ク其ノ奉戴スル帝王ニ對シテ不敬ノ所
爲アル者及ビ不敬ノ言ヲ發スル者ヲ以テ此律ニ照ラシテ
死罪ニ行フニ至ル而シテ其最モ甚シキハ帝王ノ肖像ニ向テ
此クノ如キ所爲アル者モ亦竟ニ其ノ罪ヲ免ル、^一能ハズ
且ツ其罪人ノ死後ニ於テスラ遍チク其家内ヲ搜索シテ所
有ノ財産ヲ悉トク官ニ收没シ人ヲメ其遺物ニ因テ斯ル惡
逆人ヲ記臆スル無カラシメント要セリ

右ノ如ク羅馬ノ共和政治時代ニ於テハ其ノ共和政体ヲ無
窮ニ保續セント欲スルガ故ニ其政府ヲ顛覆シ或ハ帝王ニ
類似スル權勢ヲ得ント謀ル者ヲ目シテ最重ノ國事犯ト爲
シ又其四方ノ邦國ヲ討滅シテ版圖ヲ廣メント要スルガ爲
メニ將校ノ軍隊ヲ敵地ニ亡ナフ者ヲ以テ其次ニ置キ之ヲ
犯ス者ハ必ス死ヲ以テ之ヲ罰セリ然リト雖モ紀元前三百
八十五年ニ於テ牙爾^ガノ大軍ガ其都會ニ來襲シ上院ニ
闖入^チシテ有名ノ老將^ニ刺死シ西ヲ暴殺セシノ禍ヲ免カル、
能ハズ軍隊ヲ敵地ニ亡ナフノ將校ヲ國事犯ト爲レ之ヲ嚴
刑ニ処メ諸軍ニ徇ヘシ効驗ハ果シテ安ソカ在ルヤ而シテ紀
元前四十三年ニ於テ談撒^ハ遂ニ其好名心ヲ逞クシ巧ミニ

其民ヲ籠絡シ幾ント九五ノ大權ヲ掌握セントセリ後數年
ナラズノ渥他蒲斯ハ遠ニ自カラ羅馬帝ト稱シ全ク從前ノ
共和政体ヲ變換ンテ純然タル君主專裁ト爲スニ至レリ其
ノ前キニ帝王ニ親似スル權勢ヲ得ントスル者ヲ国事犯ト
爲シ之レヲ峻刑ニ処セシメテ功效ハ亦果シテ安ンカアル
ヤ而シテ国事犯者ヲ死刑ニ処スルノ習慣ハ獨リ羅馬ノミ
ナラス古今各国其ノ十分ノ文明ヲ得サルニ當ツテ比々ト
レテ之レアリ殊ニ英國ノ如キハ現今該犯者ヲ処スルニ於
テ頗ル寛大ナルノ名譽ヲ得タルモ古昔ニ在テハ其苛酷ナ
ルヲ殆ンド羅馬ト一般ニシテ曾テコンパデルプロツト地雷
大ヲ以テセームス一世及ビ其ノ議員議員發覺シテガイホウク
議員ヲ政事堂ニ殺サントメン陰謀

スヲ刑場ニ刎ネヌキヤトレス一世ノ放恣ヲ怒ツテ国事犯
ト爲シ之レヲ戮スル等ハ其ノ最モ著シキ者ナリ然レト雖
氏英廷ハ當時ガイホウクスヲ殺シテ百年ノ後臣民ノ王家
ニ仇ヤント欲スル者ノ心膽ヲ寒カラシメント希望セシモ
終ニ議院黨カ鼓ヲ鳴ラシテ王家ノ暴政ヲ攻メ其ノ暗主チ
ヤトレスヲ刑場ノ鬼ト爲シタル一大奇禍ヲ免カルト能
ハバ而シテ其ノ議院黨ハ残酷ニモ其ノ君主ヲ殺シテ將來
復タチヤトレス其ノ人ノ如キ暴政家無クシテハハハ期シタ
リト雖氏其ノ均富共樂ノ時代ハ全ク英人ハ一夢場ニシテ
十五年ノ後王家再ビ起テ其政權ヲ專ラニスルハ則チ又始
メノ如キヲ免カレズ然レドモ英民ハ此ニ至テ巴ニ議院黨

乱ノ却テ意外ノ国患タリシヲ經驗セシニ由テ敢テ輕々シク粗暴ノ策ニ出テズ耐忍不拔ノ精神ヲ以テ能ク進路ノ百難千艱ヲ凌キ漸次ニ今日ノ如キ自由ノ真境ニ達セリ是ニ由テ之ヲ視レハ彼ノチヤレヌヲ以テ国事犯ト爲シ之ヲ戮シタルコトノ毫モ其ノ民ニ益セザリシハ亦甚ダ明ラカナリ

国事犯者ヲ殺スハ此クノ如ク其ノ益スル所ナキノミトラス却テ往々恐ル可キノ大害ヲ生スル者アリ英國學士ブラソグストン氏曰ク暴逆ナル君主ハ自カラ好シテ国事犯者ヲ作為スル者ナリト世以テ金言トス蓋シ其ノ意ハ暴威ノ壓制ヲ以テ国事犯ニ非ラサル者ヲ強ヒテ国事犯ノ範圍ニ

入レテ嚴刑ニ処スルヲ謂フナリ夫レ一人或ハ数人ハ私ヲ以テ擅ニ国事犯者ヲ作為ス其害固ヨリ小ナラズ況ヤ之ヲ殺スニ於テヤ在昔齊桓ハ管夷吾ヲ殺サズシテ其霸業ヲ大成スルヲ輔弼ヲ得趙氏ノ衰世ニ至ツテハ秦檜ガ諂ヲ信ジテ其萬里ノ長城タル岳武穆ヲ南州ニ致レ遂ニ其亡滅ヲ禍ヲ招ケリ国事犯者ヲ処スルノ如何ニ由テ其禍福ヲ異ニスルハ斯ク又如ク甚キ者アルナリ而シテ此等ノ例ハ特リ各国ノ古代ニ於テ往々徴ス可キニ止マラス近世ニ在テモ亦其著キ者アリ曩キニ合衆國ニ於テ南北戦争ノ結局ニ至ルヤ合衆國政府ハ南部ノ巨魁タリシ者ヲ殺サズシテ終ニ之ヲ赦免セリ而シテ政府ハ之ヲ赦免セシガ爲メ

ニ曾テ些小ノ禍害ヲ蒙ラサルノミナラズ其戦後ニ於テ南
部ノ民心ヲ收攬スルニ當リ大ニ其益ヲ得タリト云フ亦是
レ国事犯者ノ殺ス可ラサル確證ニ非スヤ
抑モ国事犯ナル者ハ其犯者ニ對向スル一人若クハ数人ヨ
リ之ヲ視レハ其罪甚タ重クシテ且ツ惡ム可キカ如シト雖
氏或ハ公衆ヲ以テ之ヲ視ルハ時トシテ殊ニ然ラサル者
アリ或ハ其對向セル一人數人ノミナラス其国公衆ノ相共
ニ目シテ其罪最モ重シト爲ス者ニシテ尚ホ且ツ之ヲ字内
ノ公論ニ問ヒ他国ノ公衆ニ因テ判セシムレハ其罪却テ皆
無ニ歸スルカ如キト往々之ナキニ非ズ歐米開化諸国ノ国
事犯ヲ処スルニ概ネ寛典ヲ以テスル者ハ蓋シ此ノ理由ニ

原ヅクナリ数年前佛国大統領マクオン氏が国ヲ賣ルノ叛
人前大将ハゼンメガ死一等ヲ免セシメハ蓋シ深ク此ニ慮ル
所アリテ然リレナラン乎
以上歴史上ノ成績ニ於テ国事犯ヲ処スルニ死刑ヲ以テス
ルノ不可ナルヲ舉ケ来レハ以下法律上ニ於テ其常事犯ト
ノ區別及其罪ノ如何ヲ陳セントス
抑国事犯トハ佛語之ヲデリー、ポリナツト云蓋シ「デリー」
ハ罪ノ義ニシテ「ポリナツ」ハ政事ノ義ナリ故ニ苟クモ一
国ノ政体ニ害ヲ加フル罪之ヲ国事犯若クハ政事犯ト詔フ
而シテ其国事犯ニ非ルモノハ概シテ之ヲ常事犯若クハ非
国事犯ト云フ

凡国事犯ト否ラサルモノト識別セント欲セハ先其犯罪ノ
性質如何ヲ熟察シ左ノ問答ヲ設ケ下例ノ如クナルト否ト
一因テ其區別判然タルベシ
第一現犯ニ因リ何人カ最モ直接ノ損害ヲ被ムル者ナルカ
曰ク国ナリ
第二其国家ノ害ヲ被ムリタル權利ハ何ナル權利ナルカ
曰ク社會即チ政体ノ設立ニ関スル所ノ權利是ナリ
第三其罪ヲ罰シテ如何ナル益アルカ 曰ク全国ノ政体ニ
関スル公益是ナリ
如此問答ノ相應スル時ハ即チ之ヲ国事犯ト云然レ其利
害共ニ国家ノ政權ニ係ラスシテ公私ノ利害錯雜殆ント決

シ難キモノアルナリ其罪質ハ仮令国事常事ノ二犯ヲ兼ス
ルモノタリト雖モ其ニ犯ノ刑ヲ併セ科ス可キモノニ非ス
由是如斯場合ニ在テハ唯其二刑ノ中一ノ重キニ據テ論ス
ルヲ定規トスルナリ
故其犯罪ノ国事ト常事トニ涉ルキハ先其政事ニ関スル
罪状ト常事ニ関スル罪状トノ輕重ヲ比較シ何レノ罪が最
モ社會ニ危害ヲ致スノ大ナルカ又之ヲ罰スルニ何レノ名
義ヲ以テシテ社會公益ノ大ナルカヲ察シ若シ其利害共ニ
政事ニ関スルモノニ於テ大ナル時ハ即チ国事犯ヲ以テ之
ヲ論シ之ニ及スル場合ニ在テハ即チ常事犯ヲ以テ之ヲ論
ス可キナリ

今茲ニ其一例ヲ舉ンニ人アリ国事犯ノ目的ヲ以テ政堂ノ
貴官ヲ謀殺シタリ其人ヲ殺スハ罪ノ最モ重キモノナルカ
故ニ其重キヲ国事犯ノ罪ニ勝ル故ニ此場合ニ在テハ謀殺
ヲ以テ本罪トシ常事犯ヲ以テ論ス可キモノトス今又其犯
罪ハ国事犯ヲ遂シカ爲メノ犯ニシテ彼最モ汎濫ノ質アル
嘯集一揆若クハ國民相鬪フノ内乱ヲ發スルカ如キ其競争
ノ所業實際兵戦ノ体面ヲ供ヘタルト明カナルニ於テハ假
令其所業ハ何程ノ罪惡アルモ一箇ノ国事犯罪ト云ハサル
ヲ得ス

若シ又之ニ反シ其所業全ク兵戦ノ体面ナクシテ嫖娼若ク
ハ復讎ノ意ヲ挾ミ謀故殺ヲ行ヒ或ハ議院ニ迫脅又ハ獄屋

ニ暴行シ又ハ火ヲ放チ其騷擾ニ乘シテ公私ノ貨物ヲ掠奪。
シ以テ一巳ノ情熱ヲ逞フシ以テ己レヲ利セントスルカ如
キハ畢竟其意私情ヲ遂クルニ在ルカ故ニ到底常事犯タル
ニ止マリ国事犯ト云フヲ得サルナリ
国事犯ト常事犯ノ區別既ニ如此ナルヲ以テ從テ之ヲ処ス
ルニ刑モ亦異ナラサルヲ得ス故ニ之ヲ左ニ辨明セントス
抑刑法ノ本旨タルヤ二箇ノ惡因併具シテ始テ之ヲ罰スル
者ナリ何ソヤ一ハ道德ヲ壞亂ス二ハ害ヲ社會ニ流ス是レ
ナリ凡ソ此二箇ノ一ヲ缺クハ其罪ヲ論セス或ハ之ヲ論
スルモ其刑大ニ輕カラサルヲ得ス
国事犯ハ元來其目的タル國家ノ便益ヲ謀ルニ在リテ或ハ

議論世ニ合ハザルヨリシ或ハ租税賦役等ノ事ヨリ起リテ
他ノ私慾惡心即チ謀殺、贗造、賊盜等ノ如キ道德上ニ不良
ルニ非ス何トナレハ其或ハ人ヲ殺スモ唯之ヲ拒防スル人
ニ止リ財ヲ奪フモ其目的ヲ遂ルノ資ト爲スニ過キス此他
橋梁ヲ切り電信ヲ断テ隊兵屯營ヲ燒クモ亦是レ畢竟他ノ
軍兵ノ不使ヲ謀ル所爲ニ過キサレハナリ故ニ其蹟同シキ
モ其实常事犯ト同視スヘカラス既ニ同視スヘカラスナルノ
理由アレハ刑モ亦隨テ異ナラサルヘカラスナルナリ
以上説ク所ノ如ク到底國事犯ハ常事犯ト其性質ヲ異ニス
ルモノナレハ其ノ大逆ヲ犯シ止ラ得サルノ場合ニ於テハ
斬絞ニ処スルモ蓋シ可ナリト雖モ之ニ施スニ加辱刑ヲ以テ

ス可キノ條理アルベカラサルナリ

第二十九章 被告未決ノ囚人取扱方及ニ刑事裁
判ノ早断速決スベキヲ論ス

民刑二法ノ人民ニ於ケル其関スル所両ツナカラ輕カラス
ト雖モ今昔シ強テ其ノ間ニ輕重大小ノ異ナルアリトセハ
民法ハ刑法ノ関涉スル所甚タ大ニシテ且ツ重キカ若キニ
ハアラサルナリ民法ハ其ノ主眼專ラ財産ヲ護スルニ在リ
刑法ハ其ノ目的偏ニ身軀ヲ罰懲スルニ在リ然リ而テ財産
ニ貴フ所ノ者ハ其ノ能ク身軀ニ愉快安樂ヲ與ルカ爲メナ
レハ身軀ヲ以テ財産ニ殉スルヲ好ムノ人ハアラサルヘシ
然ラハ則チ身軀ニ直接スルノ刑法カ人民ニ関スルノ重ク

シテ且ツ大ナルハ亦タ民法ノ比ニアラス而シテ囚人ノ逮捕
審判ノ遲速ノ如キハ生民ノ休戚ニ関スルノ最モ重キ者ナ
レハ豈忽ニスヘキモノナランヤ
凡ソ人類ノ行爲ハ疑似ノ形迹ヲ以テ容易ニ之ヲ定斷スヘ
キ者ニアラス假令ヒ平居不良ノ世評ヲ得テ百事ニ慧狡ナ
ル人ト虽モ他ノ一事ニ於テハ却テ正直廉潔ナルコトアリ又
善良ノ称譽ヲ世間ニ得タルノ人ト虽モ一事或ハ其ノ過惡
ナキヲ保スヘカラス然ルニ今薄弱ナル人智ヲ以テ疑似ノ
迹ニ依リ罪惡ノ有無ヲ推想シテ之ヲ拘留逮捕スルノ時ニ
當リ其ノ取扱ハ果シテ如何ニスヘキヤ被疑未決拘留逮捕
ノ間囚人ヲ遇スルニ罪迹已決ノ者ヲ以テシ若シ其レヲシ

テ冤枉無辜ナラシメハ其間ニ於テ嘗受セレ囚人ノ困苦酸
辛ハ法廷ヨリ如何ニ之ヲ償辨スヘキノ好シ又囚人ヲシテ
實ニ罪迹アラシムトモ未タ審判ヲ經サルニ單ニ推量空想
ヲ以テ之ヲ虐遇スヘキノ理ハアルヘカラス故ニ被疑未決
ノ囚人ハ之ヲ無罪ノ人ト見做シ其ノ通同構辨ヲ防止スル
ノ外ハ之ヲ寬待スヘキ者ナリ斯ノ如クモハ假令ヒ百罪人
ヲ寬待スルニ失スルモ猶ホ一冤人ヲ虐遇スルノ大過ヲ免
レシ是レ則チ英米二国ニ於テ夙トニ是ノ主義ヲ取り是ノ
法規ヲ定メシ所以ニシテ開進ノ聲譽ヲ東洋ニ有スル我邦
ノ應ニ模倣スヘキ者ニアラスヤ又審判ノ遲速ハ眞々ノ中
ニ刑律ヲ輕重スルノ利害ヲ生スル者ニテ拘囚ノ後空シク

獄裏ニ投撃セラレ幾多ノ歲月ヲ經過スルモ嘗テ審断ヲ得
ヒヤハナキ
 ルコトナクシハ極刑ノ者ハ之ニ因テ其ノ性命ヲ延フルヲ得
 ハク輕犯冤枉ノ人ハ亦タ之ニ因テ過當ノ懲罰ヲ受クルニ
 至ラン往昔英國ニ於テ輕犯未決ノ人民ヲ龍動ノ古塔ニ投
クルシム
 入シ其審断ヲ延長シテ以テ過當ノ懲罰ヲ與ヘシハ遂ニ人
ロビリン
 民ヲシテ早断速決ヲ促スノ權利ヲ保存セシムルノ種子ト
 ナリ自來米國ノ移民亦タ之ノ權利ヲ建国ノ後ニ確定シ今
 日ニテハ早断速決ノ幸福ヲ得テ過長ナル法庭ノ審断ヲ免
 ルコトハナレリ實ニ被疑未決ノ囚徒ハ勿論其ノ家人親
 姻カ審判ノ如何ヲ憂思シテ夢寐起臥ニモ忘ル、能ハサル
ネテモラキテモ
 ノ悲態ハ其ノ輕重決シテ已決ノ責罰ニ減セサル者ナリ故

ニ刑法ニ関スル囚人ノ審判ハ其ノ断定持ニ速カナラシ
ワラテ
 ヲ要ス以上二事ハ人民ノ身軀ニ直接スル利害ノ最モ大ナ
カラダ
 ル者ニシテ當局者ノ宜ク注意セサルヘカラサルモノナリ
 第三十章 罰金ノ刑ヲ論ス
 刑ニ數種アリ或ハ生命榮譽自由ヲ剥キ〔死刑、徒刑、囚獄ハ刑
公推剝奪ノ類ナリ
 或ハ資財ヲ減スルヲ主トス〔罰金〕東洋諸國ニ於テハ偏ニ財
 産ニ及フノ刑即罰金ナルモノ古ヨリ之ヲルコトヲ聞カス文
 那唐虞ノ世已ニ五刑ノ名アリ而シテ罰金ノ刑アル無シ尚各
 ニ曰ク墨罰之屬千劓罰之屬千、剝罰ノ屬五百官罰〔陽物ヲレハ
トシテ
 一リ女ナレハオレコメ置テ之屬三百、大辟之罰其屬二百五刑
シヤイ
 之屬三十ト周ノ穆王ノ時ニ至リ始メテ五刑ノ疑レキハ各

贖ヲ以テ論スルヲ聽ルセリ〔舞典ニ所謂ル金作贖刑ノ贖トハ鞭扑ノ罪ヲ贖フ而已ニ〕
 及ハテ五刑ニ然レ氏是レ純乎タル刑ニ非ス〔帝ニ他刑ヲ贖フニ過キナリシナリ後世ニ及ンテ笞杖徒流死ノ五刑ヲ以テ主刑トナシ財産没官ヲ以テ其ノ罪ノ附加刑トナシ犯人ノ身分ニヨリ收贖スルヲ聽ルセリ故ニ支那ニ於テハ財産ヲ收ムルノ刑實ニ中世ニ初マルト謂フ可シ然レ氏其刑タル今日ノ罰金ト同カラス所謂總沒收是レナリ吾邦ノ古ヲ稽カシカフルニ未タ詳ナラス恨ムラクハ書ノ傳フルナキヲ大室律ニ據ルニ笞罪五アリ十〔贖斤銅〕廿〔贖斤銅〕卅〔贖斤銅〕四十〔贖斤銅〕五十〔贖斤銅〕別ツ杖罪五アリ六十ヨリ始テ一百ニ竟ル〔贖斤銅〕六十〔贖斤銅〕徒罪五アリ一年ヨリ始テ三年ニ竟ル半年ヲ以テ一

夏士

ナリト虽氏之ヲ憫諒矜恤スルノ意ニ出レハナリ尚書呂刑〔フレム〕ヲ闕スルニ支那周代ノ贖金モ亦殆ント罪金ト其性質ヲ同ウス且ツ明カニ其何錢ト書スヲ見レハ則チ直チニ罰金ノ名称ヲ下スモ亦不可ナカル可シ
 古ノ印度ヲ觀ルニ巴ニ罰金ノ刑アリ其マナウアダンマサストラ即チマヌーノ法典ニ據ルニ刑ニセアリ而ノ犯罪ノ罰金ニ談ル者最モ多シト云フ其他メード〔百兎西〕ハブル〔ヤ〕希臘等皆此刑ヲ置カサルハナク甚シキハ他刑措テ用ヒサルモノアリキマ〔ガ〕リア氏ノ言ニ曰ク諸般ノ刑皆金ヲ以テシタル世アリト証トナス可シ而シテ其罰金ノ誰カ子ニ落チ又何等ノ用ニ供セシヤ〔譯〕ヌルニ多クハ帝王公侯若ク

ハ一種族ノ掌握ニ歸シ以テ其財ノ匱乏ヲ文ヘ以テ其欲ヲ
逞フセシムルノ用ヲ爲ス。過キサルナリ。
夫レ罰金ノ刑ヲ以テ民財ヲ斂ムルノ方便トナシ国帑ヲ充
タスノ術策トナシ或ハ偏ヘニ之ヲ用ヒ或ハ濫リニ之レヲ
施コス其ノ利害得失智者ヲ待テ而メ後チニ知ラサルナリ
然レモ此刑ヲ用ユルニ其當ヲ得レハ則チ啻ニ弊害ヲ生セ
サルノミナラス隨テ小民ヲシテ懼レテ罪ヲ犯サ、ラシム
ルノ好結果ヲ見シ

モンテスキウ曰ク吾人ノ祖先タル日耳曼人ハ獨リ金刑〔金罰〕
刑ノミヲ用キタリ其人皆戰ヲ能クシ而メ自由ナリ以爲ク
兵器ヲ挾持スルニ非レハ血ヲ流ス可カラズト之レニ反シ

等ト爲ス〔贖銅廿斤ヨリ〕流罪ニ近流〔贖銅百斤〕中流〔贖銅百廿斤〕遠流〔贖銅百卅斤〕
ノ別アリ死罪ニ絞ト斬ト〔贖銅各百斤〕ナリ而メ名例律ニ
云フ以テ官當徒者罪輕、不_レ尽_レ其官、留_レ官收贖、又云年七十以上十
六以下及廢疾犯流罪以下收贖、八十以上十歲以下及篤疾、反
逆殺人應死者上請盜及傷人亦收贖、又云九十以上七歲以下、
雖有死罪不加刑即人教令坐其教令者ト断獄律ニ云フ疑罪、
各依_レ所犯以_レ贖論ト是ニ由テ之ヲ觀ルニ贖銅ハ即チ今日ノ
收贖金ニシテ罰金ノ性質ヲ帶ルモノニ非ス又賊盜律ニ据
ルニ謀反及大逆者ノ父子若クハ家人資財田宅并ニ官ニ没
ス是亦總沒收ナリ故ニ本邦及ヒ支那ニ於テハ法律先ツ多
數少數ヲ定メ而メ博ク諸般ノ罪惡ニ當ツ可キ罰金ノ刑古

へ未夕之レアラスト謂フ可シ然レ此利ニ相類スルモノ
無キニ非ス何ソヤ夫ノ疑罪ニ用ユル所ノ贖金はナリ断獄
律ニ曰ク疑罪各依所犯以贖論ト注ニ云フ疑謂虚実之証等
是非之理均或涉疑似旁無証見或旁有聞証事非疑似之類ト
故ニ例ハ甲者アリ強盜ノ罪ヲ犯シクリト告ケラルモ
其虚実証相等クシテ決シ難キ時ハ律ニ照シテ実刑相當ノ
贖銅ヲ課ス即チ不得財ナラハ徒二年ノ贖銅四十斤一人ナ
ラ徒三年ノ贖銅六十斤因テ人ヲ傷セハ斬ノ贖銅二百斤ヲ課ス可シ是ニ由テ觀ルニ疑罪
ノ贖銅ハ他ノ老小癡疾官吏等ニ用ユル所ノモノト異ナル
ナリ何トナレハ一ハ罪ノ疑ハシキハ惟レ輕クスノ元則ニ
循ヒ以テ刑ヲ慎ミ万一ノ失誤ナキヲ主トシ一ハ犯情明白

テ日本人ハ謂ラク此刑ヲ用レハ富者幸ニ刑ヲ免カレシト
故ニ之ヲ捨テ取ラス然レ富者モ亦其財産ヲ失フヲ恐レ
サル乎金刑ハ犯人ノ資産ニ應シテ之レカ輕重ヲ爲スヲ得
サル乎又此刑ニ加フルニ汚辱ヲ以テスルヲ得サル乎能ク
法ヲ立ル者ハ常ニ正中ヲ執テ失ハス故ニ必スシモ偏ニ金
刑ニ倚ラス又獨リ身体ニ加フルノ刑ヲ用井ス云々萬法精理ニ見ユ
ト宜ナル哉言ヤ
夫レ人ノ愛重シテ瞬時モ之ヲ失ハニテヲ恐ル、所ノ者其
數甚タ多シト雖モ就中其最ナル者ヲ擧ルニ曰ク生命曰ク
名譽曰ク自由曰ク財産此四者ニ過キス而ノ生命ヲ最上ト
シ財産ヲ最下トシ名譽自由其中間ニ位スルカ如シ然レ

之ヲ實際ニ徴スルニ往々順序ノ必シモ此ノ如クナラサル
ヲ見ルナリ或ハ名譽ヲ求ムルニ急ニシテ死ヲ見ルヲ歸ル
カ如ク或ハ自由ヲ得ント欲スルノ極、生命ヲ愛マサル者ア
リ其心情ヲ察スルニ多クハ嘉賞ス可シ唯夫ノ名譽ヲ損ス
ルヲ憚ラズ生命ヲ失フヲ恐レズ人ノ財物ヲ窃取奪掠シ以テ
我カ情欲ヲ遂ルノ資トナス者ニ至リテハ三尺ノ童子モ猶
ホ其情ム可キヲ知ルナリ熟々世ノ現状ヲ視ルニ斯ノ如キ
ノ輩日ニ其數ヲ増スカ如シ因テ知ル財産ヲ愛スルノ心、時
アリテ生命ノ上ニアリ又常ニ名譽自由ヲ愛スルヨリ甚シ
キヲ
抑刑罰ハ人ヲ懲スルニ足ラサレハ之ヲ設ルノ効ナシ人ヲ

懲戒^{コラシイマシム}セシトスレハ其愛重スル所ノモノヲ殺クニ若クハナ
シ今人々最モ財産ヲ愛スルヲ知ラハ則チ其一部ヲ殺ク
ノ刑ヲ置カサル可カラス且ツ刑ハ寛ニシテ効アルヲ主ト
ス寛ノ最モ寛ナルモノ罰金ニ過ルハナシ故ニ罰金ノ刑ハ
今日ニ闕ク可カラス又之ヲ適用スルノ場合甚ク廣カラサ
ル可カラス
然レモ犯罪ノ如何犯人ノ如何ナルヲ問ハス偏ハニ此刑ヲ
用井ント云フニ非ス夫ノ再犯人又ハ一定ノ住所産業ナキ
犯人其他罪ニ慣レテ法ヲ懼レサル徒ハ之ヲ除キ餘ハ犯罪
ノ種類ト本犯ノ性質トヲ察シ罰金ノミニテ足ル可シトス
ル時ハ單ニ之ヲ課シ決シテ擊獄シテ自由ヲ剝キ且ツ榮譽

ヲ毀ラサルヲ欲ス要スルニ犯人ノ自由面目ヲ保存シ之ヲ
 シテ自ラ反求シテ善ニ還ラシメテ期スルニアリ
 ベシサム曰ク罰金ハ最良ノ刑ナリト實ニ然リ其然ル所以
 ノモノハ第一寛ニシテ人ノ自由ヲ重シス他刑ノ及フ可キ
 所ニ非ス第二細分小別スルヲ得例ハ五円以上十円以下
ノ罰金ナレハ之ヲ言渡ス
課スルヲ得トナシ又ハ九円九角九分九釐
ニ至リテハ一日ノ分數即
時分ヲ言渡スヲ得ス若シ之ヲ第三獄舎ノ費用ヲ省キ且ツ
許ルサハ大ニ混難ヲ生スヘ金田ヲ官ニ收入ス二倍ノ利益アリベンサムノ所謂罰金ハ
 繫獄スルノ刑ニ異ナリテ全ク実益アリト是之ヲ謂フナリ
 第四此刑ヲ無辜ニ加フルト虽氏後其失誤ニ出テタルヲ覺
 レハ即時金田ノ全數ヲ返還スルヲ得他刑ニアリテハ
此ナラス例ヘハ死

刑ニ處シタル後ハ蘇生セシムルヲ得ス繫獄シタル後ハ其
剥奪シタル自由無刑ノ物ナルニヨリ之ヲ返還シテ旧ニ復
カセシムルヲ得サル第五犯罪ノ性質ト相齊キヲ得例ヘハ
 盜罪ニ當ソルニ此刑ヲ以テスルハ則チ金田ニ管スル罰ナ
 ルニヨリ金ニ罰スルナリ他刑ニ至リテハ概テ然ルヲ得
 ス例ヘハ罪毆傷ニ管スルモノナリトモ毆傷スルノ刑ヲ用
フキスルキスレテ之ヲ懲役ニ罰セハ則チ罪ト刑ト其性質ヲ相異ニ
 ス強テ其同質ヲ求レハ必ス上世ノ變俗ニ復シタリオンノ
 刑ヲ行ハサル可カラサルナリ
 以上罰金ノ刑人情ニ適スル所以及ヒ其效用并ニ其他刑ニ
 優ルノ由ヲ陳シ兼ネテ貧者ニ對シテモ亦其徵收ニ混難ア
 ラサルヲ辨シ且ソ此刑ノミニシテ能ク犯者ヲ懲戒シ世

人ヲ畏懼セシムルニ足ル可シトスル時ハカノ及ブタケ他
刑ヲ用非スシテ單ニ此刑ヲ課シ自餘ノ犯罪ニ付テハ必ス
此刑ヲ附加ス可キヲ論シタルヲ以テ充分ナリトシ今日
リ方向ヲ轉シ罰金ノ額ヲ定ムルハ罪ノ輕事大小ニ循ハ
カ若クハ犯人ノ貧富ニ應ズ可キカヲ説カレトス
夫レ刑罰ハ已ニ論シタルカ如ク暴ヲ禁シ邪ヲ止メ群生ヲ
養育スルヲ以テ主旨トス即チ罪ニ對シテ設ルモノナルカ
故ニ罪ノ大小ニ應シテ之レカ輕重ヲ判定セサル可カラ
立法者ハ豫ノ彼此百千ノ罪科ヲ推衡比較シテ其社會公衆
ヲ害スルノ度ヲ量リ以テ其罪ノ大小ヲ判チ而シテ後チ其罪
ニ相應スルノ刑ヲ當ツ可キナリ然レトモ罪刑ヲシテ相應

セシムルハ古來人ノ難シトスル所ニシテ必ス一定不易ノ
元則アリテ以テ之レカ標準タル可キモノナカル可カラ
ペンサム曰ク刑ヲ以テ罪惡ヲ未タ然ラサルニ豫防シ已ニ
犯スニ懲罰セント欲セハ其本犯ニ加フ可キノ苦楚及チ剥
奪自由榮譽財ス可キモノ必ス犯罪ヨリ生ス可ク又ハ生シ
タル所ノ損害ニ比スレハ一層重大ナラサル可カラスト實
ニ一大元則クリ若シ此元則ニ背キ罪ト刑ト相齊シキ時ハ
恐テクハ刑ノ効用ヲ失ハン犯人ニ於テ得ル所ト失フ所ト
毫モ異ナラサレハナリ
罰金ノ刑ニ至リテモ亦罪ニ應シテ其多少ヲ定メ且ツ此元
則ニ循フ可シ聞ク古典エクゾトト聖部中盜スル者ハ賍

物ノ二倍若クハ三倍ヲ返還ス可シ云々ノ条ヲ掲ケ羅馬法
 於テモ亦之レニ倣ヒ罰金ノ高ハ損害ノ二倍タル可シト
 定メタリト見ル可シ元則チ發願シタルハ早トニ千數百年
 前ニアリタルヲ法朗西現行ノ法律ニ拠ルニ一定ナラス
 其罰金ヲ課セサルノ罪ハ姑ク之ヲ舍キ之ヲ課スルモノト
 雖モ或ハ犯罪ヨリ生スル損害ニ比スレハ六倍ノ多キニ及
 刑法第百三十五條或ハ帝ニ二倍トシ刑法第百
百十七條或ハ四分ノ一ノミニ
 止ム刑法第百六十四條第百七十二條及
第百三十一
十五條第百六十六條第百四十二條
 又瑞典丁抹ニ於テハ盜罪ヲ犯ス者初犯ナレハ贓物ニ三
 倍シ再犯ナレハ四倍ス可キノ罰金ヲ附加刑トシテ之ヲ課
 スト云フ皆其當ヲ得ルモノト謂フ可カラス予ハ左ノ如ク
 百六十七

一定ノ規則ヲ設ケ以テ罰金ノ額ヲ定ムルヲ可トス
 第一 罰金ヲ以テ主刑トナス時ハ犯罪ヨリ生スル損害
 ノ高ニ二倍スルヲ以テ適度トス
 第二 附加刑トナス時ハ損害ノ高ニ等シキ高ヲ以テ適
 度トス
 斯ノ如ク定ムルト雖モ損害ノ高ニ至リテハ得テ算シ難キ
 ノ罪アリ只立法者ニ於テ其罪ハ害ヲ社會ニ被ラスルヲ幾
 何ナルヤ之ヲ金ニスレハ若干円ニ當ル可キヤヲ概算シ而
 ノ後チ罰金ノ多少ヲ定メハ中ラスト雖トモ遠カラサル可
 シ又刑罰ヲ設ケテ以テ犯人ノ再ヒ罪ニ陥ルヲ防カント欲
 セハ其感覺力ニ應レテ刑ヲ輕重セサルヲ得ス故ニ罰金ノ

多少ハ亦本犯ノ貧富ニ循ヒ之ヲ定ム可シトス法朗西ノ法
 律ニ拠ルニ皆最上額最下額ノ制限アリ且ク其間隔甚々狹
 小ナリ是ヲ以テ實際法ヲ施行スルニ當リ偏輕偏重ノ弊ヲ
 免カレス例ヘハ茲ニ甲乙二人アリ甲ハ數万ノ身代ヲ有シ
 乙ハ赤貧ナリ此二人相謀テ同一ノ罪ヲ犯スニ其罪タル十
 六フランク一我カニ十四金九以上三百フランク以下ノ罰金
 ニ諛ルモノトスレハ如何ナル処断ヲ爲ス可キヤ甲ニ對シ
 罰金ノ最上額ヲ言渡ストモ辨償甚々容易ナルヲ以テ刑ノ
 効驗ヲ缺クカ如シ之ニ反シテ乙ヲ最下額ニ処ストモ尚ホ
 其糊口ノ資ヲ徵收スルニヨリ刑ノ嚴ニ過ルヲ覺フ今此弊
 ヲ去テ裁判ノ公平ニ出シテ望マハ民法第百九十二條ニ

循ヒ家産ニ准シ罰金ヲ課スルノ法ヲ誤ク可シ若シ然ラハ
 貧者富者ノ感覺スル所同一ニシテ偏輕偏重ノ患決テ之レ
 アルコトナシ現ニバード、ウルトン、ベール、伯耳義、西班牙、
 牙及北亞ブレシル等ノ諸国ニ於テ此法ヲ實施スルニ小
 害ヲクシテ大益アリト云フ而シテ自耳義ノ法ニ拠ルニ違警
 罪ニハ最上額ニナ五最下額一アリト雖ヒ重罪輕罪
 ニハ唯最下額ニナ六ノミヲ定メ餘ハ犯罪ノ性質ト本犯
 ノ貧富トニ循ヒ裁判官ノ裁定スルニ任ス又ブレシルノ法
 ヲ見ルニ重輕罪ト雖ヒ自ラ最上額アリ法律ニ於テ豫メ若
 干円ト定ムルニ非ス只犯人カ其固有ノ財産又ハ商業等ヨ
 リ獲ル所ノ歲入一年分若クハ二三ヶ年分ヲ以テ限トトス

是レ裁判官ニ於テ大額ノ罰金ヲ言渡シ古ノ總沒收ニ類ス
ルノ処置ヲ爲サシトテ憲リテ然ルナリ故ニ此制限ヲ設ケ
ハ弊害ヲ未タ萌生セザルニ防クヲ得ン依テ予ハフレビル
ノ法ニ倣フ可トス
今茲ニ筆ヲ擱クニ際シ更ニ前説ヲ略陳センニ罰金ニシテ
果シテ予カ言ニ違ハスレテ大ニ効用アラハ勉メテ之ヲ適
用シ其最上額最下額ハ豫メ之ヲ定メスレテ單ニ犯罪ヨリ
生スル損害ノ大小ニ應シ且ツ犯人ノ家産ニ准ンテ法官ノ
斟酌輕重スルニ任カヌルニアルナリ

第三十一章 刑事傍聴及刑事代言ヲ論ス

證據裁判ノ法ハ是非共ニ罪人刑状ノ確證ヲ得ルニアラサ

レバ如何ニ人惡業ヲ爲シ罪狀ヲ犯カスト云フト虽氏決シ
テ之レニ罪ヲ與フミカラガルモノナルト明白ナレハ或ハ
有罪ノ徒ヲ無辜ニ失スルコトアリ太甚ニキニ至リテハ證ノ
一點ニ迷フテ無辜ノ人ヲ拘引スルノ恐レアリテ口供結案
ノ法ト均シク冤ヲ蒙ラシムルノ害ナキニ非ラズト虽氏之
ヲ拷問法ノ漫ニ苦刑ヲ與ヘテ罪狀ヲ求ムルモノト比スル
其無辜ニ失シ不經ニ誤ルアルモ蓋シ天地懸隔スコレ證概
裁判法ハ口供判決ノ制ト比シテ大ニ其上位ニ居リ國ノ進
歩スル程証左法ノ益々改良ヲ致ス由縁ナリ
兩裁判刑法ノ甲乙高下タルハ已ニ此ノ如ク世人モ亦タ能
ク知ルトコロナリ然ル故ニ口供結案ノ判決法ニ至リテハ

良シヤ衆人ノ傍聴スルアルニセヨ只其糾拷ノ聲ヲ聞クノ
哀シキアルノミニシテ拷訊ノ未証イテ口供ヲ要スレハ正
人モ遂ニ邪ニ陥イリ罪者モ辛抱強ヨケレハ遂ニ其惡ヲ免
カレ之ヲ見ルモ其愈々冤ナルヲ知ルニ由ナクコレヲ聞ク
モ其愈々罪アルヲ判スルニ道ナク法官ノ定ムルトコロト
誰人カ其見識ヲ同ウセザランヤ故ニ之ヲ傍聴スルヲ許サ
ルノミナラズ之ヲ許スモ誰カ聴イテ益アリトナサソヤ
況ンヤ此刑事ニ代言シ人ノ爲ニ膏ヲ損シ身ヲ傷フノ難ニ
當ル之ヲ爲サソムニ堪ヘサルニ於テヲヤタトヒ之ヲ爲ス
ヲ許スモ誰レカ之レカ爲レ求メテ苦刑ヲ受ルモノアラン
ヤ

証據裁判ニ至リテハ則チ民事ノ訟庭ト異ナルナク或ハ原
被アルアリ或ハ原被ナシト虽氏司法警察已ニ其証左ヲ得
テ之レニ依リテ罪狀ヲ問フテ証責スルニ非ラサレハ遂ニ
判決スベカラサルニ非ラズヤ夫レ政府ノ民事訴訟ニ傍聴
ヲ許スモノハ其公平ノ判決之レヲ人民ニ縱聴セシムル大
ニ此民ヲシテ法律ヲ悟ラシメ且ツ訴訟ノ主義ヲ知ラシム
ルノ爲メニシテ其代言ヲ之ニ許スモノハ訴人或ハ法理ニ
暗ク其力能ク訟敵ニ破ラルノ恐レアルヲ以テ其代リテ
弁ズルヲ許スニ由ルニ非ラズヤ然レハ則チ刑事ト虽氏証
左ヲ以テ事ヲ決スルニ至レバ民事ト同ジキ主義ヲ以テ其傍
聴ヲ聽ルシ其代言ヲ允ルスモ可ナリト信憑スルトコロナ

第三十二章 已ムヲ得サルニ出ルノ

罪ヲ論ス

ルガフラス氏云人ノ所行其己ムヲ得サルニ出ルモノハ皆
罪ニ非サルナリ世間或ハ己ムヲ得サルノ罪ト云フノ語ヲ
ナスモノアリ此誠ニ矛盾^{ウシユン}ノ語ナリ己ムヲ得スシテ行フノ
事安ソ罪ト称スヘケンヤ苟モ罪ト称スヘキトハ己ムヘク
シテ行フモノヲ云フ也ト故ニ甲又ヲ握^{ニキ}ル所ノ乙ノ手ヲ執
リ乙ノ之ヲ拒ムヲ顧ミス其手ヲ以テ丙ヲ衝キ因テ之ヲ殺
傷スルカ如キハ乙ニ在テ其手ヲ動カスヤ之ヲ動カスニ意
アルニ非ス實ニ己ムヲ得サルニ出ルナリ故ニ罪ノ存スル
所ハ乙ニ在ラスシテ獨リ甲ニ在ルナリ

大体ノ主義ハ如此明白ナリト孟氏之ヲ實地ニ施シ己ムヲ
得ルト己ムヲ得サルトノ別ヲ定ムルニ至テハ大ニ容易ナ
ラサルモノアルナリ
己ノ生命ヲ救フニ必要ニシテ行フノ事ハ己ムヲ得サルニ
出ルト見ルヘシト云フハ古今ノ定論ナリ例ヘハ人即時殺
害ニ遭フノ恐懼ニ由テ反賊^{シツ}ニ與ニスルカ如キハ其恐懼存
スル間ハ其人ヲ以テ反賊トナス可ラス然レ懼ル、所財物
ヲ壞ラル、カ若クハ死ニ至ラサルノ傷ヲ負ハセラル、ニ
止ル所ハ之ヲ以テ辞トナスモ反賊タルノ罪ヲ免ル、ヲ得
ス又兇徒ニ暴撃セラレ兇徒ヲ殺サ、レハ己ノ命ヲ保ツヲ
得サル片ハ之ヲ殺スモ法ノ責ムル所ニ非サルハ固ヨリナ

リト虽其兇徒ヲ殺スト他人ノ辜ナキ者ヲ殺ストノ間ニ
 於テハ自ラ區別ヲ立テサルヘカラサルナリリュツセル氏云
 自己ノ命ヲ喪フノ懼アルモ無辜ノ人ヲ殺スヘカラス故ニ
 甲乙ニ迫リ乙丙ヲ殺スニ非サレハ甲即チ乙ヲ殺サント
 ス片ハ乙ハ寧ロ其身甲ニ殺サル、モ甲ノ令ニ從ヒ丙ヲ殺
 スヲ得スト嘗テ英國ノ裁判官ロルドデンソ^ロン氏陪審ニ令
 シタルノ語ニ云人ニハ其一身ノ禍ヲ懼ル、ノ故ヲ以テ人
 ニ害ヲ加フルノ推ナシト英國ニ於テ人飢寒ニ迫ルキハ衣
 食ヲ盜ムモ之ヲ罪セサルノ律ヲ廢シタルモ亦此理ニ據ル
 ナリ
 港ヲ封シテ船舶ノ港内ニ入ルヲ禁スルノ時ニ當リ海ニ航

スルノ船暴風ニ驅ラレ己ムヲ得スレテ港内ニ進入スルハ
 封港律ノ措テ問ハサル所ナリ嘗テ米國ピルジニヤ州ハン
 プトム港ニ於テ颶風俄ニ起リ一船ノ未夕税関ニ税ヲ納メ
 サルモノヲ吹キ去レリ然レ此船ノ主人其後ニ至テ税ヲ納
 メタルカ故ニピルジニヤニ於テハ此事ヲ海関税則ニ違フ
 タルモノニ非スト決シタリト夫レ斯ノ如ク實ニ己ムヲ得
 サルノ事ハ法律ニ於テ之ヲ責メスト虽其事ノ生スルヤ
 疎虞怠慢ニ出ルモノハ其責ヲ免ル、ヲ得サルナリスト
 レ一氏云法律ハ人々必ス遵奉スヘキモノナレハ其禁スル
 所ハ各人カノ違フ所ヲ尽シテ之ニ背カサラン^トヲ勉メサ
 ルヘカラス故ニ法ニ背テ其責ヲ免ル、ニハ重大急迫ノ情

狀實ニ人カノ避クヘカラサルモノアルヲ要スト
由是觀之事ノ已ムヲ得サルニ出ルト否サルトニ因テ其罪
スヘキト罪スヘカラサルトヲ決スルニハ其事ノ情狀如何
ヲ察セスンハアルベカラサルヤ明カナリ蓋シ之ヲ決スル
ノ方ハ各事ニ就キ其事ヲ成ス所ノ所行ト其所行ヲ生シタ
ル所ノ情狀トヲ合セ考フルニ在リ何トナレハ此情狀ハ此
所行ヲシテ其責ヲ免レシムルニ足ルモ必シモ彼ノ別所行
ヲシテ其責ヲ免レシムルニ足ラス彼ノ別所行ハ彼ノ別情
狀ノ下ニアリテ始テ其責ヲ免レ同一ノ情狀ニ出ルモ所行
彼此ノ別アレハ其責ヲ免ル、ト免レサルト亦自ラ別アレ
ハナリ之ヲ要スルニ事ヲ行フタル人自己ノ意ヲ以テ之ヲ

行フタルカ自己ノ意ニ反シテ之ヲ行フタルカヲ見以テ其
事ノ罪スヘキト否サルトヲ判スヘキナリ

第三十三章 倒産律ヲ論ス

ベツカリヤ氏曰詐欺倒産ハ罪宝貨ノ偽造ニ下ラス何トナレ
ハ宝貨ヲ偽造スルハ民間契約ノ低價物ヲ偽ルナリ詐欺倒
産ハ直チニ其契約ヲ偽ルナリト又仙律ヲ按スルニ高價ノ
倒産分テ三等トス一ハ天災避ク可カザル不幸ニ出ラ、
家産ヲ分散ス是レ律ニ於テ論セズ二ハ過失等ニ由テ倒産
ス惡意アルニ非スト虽氏猶ホ人ニ損害ヲ蒙ラシム律ニ於
テ禁獄一月以上二年以下トス三ヲ詐欺倒産トス是レ欺テ
財ヲ取ラント謀ル者罪最モ重シ徒五年以上二十年以下ト

不蓋其刑強盜情輕キ者ニ比スリホヤノス倒産ヲ論スル氏曰ニシ
テ尽セリハ則是ヲ以テ詐欺倒産ノ罪甚ク輕カラサル
ヲ知ルニ足ル可シ
顧テ東洋方今ノ景況ヲ視レハ廉耻地ヲ掃ヒ人情浮薄ハ姦猾
ニ流レ都鄙ノ間身代限ノ弊風日ニ甚シク金貨ノ流通日ニ
塞ナリ物産ノ財本日ニ乏シク人民産業ヲ失フ者少カラス
是等ハ皆国家ノ爲ニ大ニ憂フ可キトニシテ其原因ヲ問ヘ
ハ唯民間契約上信憑ヲ欠クノ一點ニ歸スベシ民間信憑ヲ
重セバ譎詐姦猾目前ノ浮利ヲ求ム故ニ身代限ノ弊風日ニ
甚シキニ至ル而シテ律ニ之ヲ問フ可キノ条ナクンハ權利
ニ害セバ榮辱ニ関セズ純然邦国ノ良民タルニ耻チズ昨ハ

詐欺倒産シテ今日ハ官衙ニ登テ天下ノ政ヲ議ス可シ人亦
以テ之ヲ擯斥セズ其甚シキニ至テハ身代限ハ商家ノ常タ
ルカ如キノ景況ニ至ルモ保スベカラス
夫レ今日ハ道德家ノ所謂ル黄金世界ニ非ス而シテ律ニ糾
罰制限アルナクンハ自ラ惡風ニ流ルハ人情ノ免レ難キ
所ナリ
人ノ信憑ヲ重シ直実公正以テ人ニ交ル可キハ原ト道德上
ニ在リ律法ノ関スル所ニ非スト虽モ其形ニ現レ公衆ノ損
害ヲ爲スニ及テハ其制裁ヲ律法ニ要メサル可カラス況ノ
ヤ其弊ヤ民間ノ契約ヲ偽リ商業ヲ妨害シ国家生財ノ基礎
ヲ壞リ其害終ニ不測ニ至ラスト云ニ難シ夫如此ノ弊風ヲ

除去セント欲セハ倒産律ヲ設クルニアルナリ

第四卷 雜款

第三十四章 萬國公法ヲ論ス

萬國公法ハ法ニ非サルナリ不適當ニ法ト名ケタルノ之夫
ノゴロチニス氏ガ公法ノ通義ヲ講明シテヨリ殆ンド二百
五十年ヲ過ク此際歐洲ノ諸名士ガ此学ヲ講スル常ニ其人
ニ乏レカラス降テ近代ニ及ビオルトランホサートンケン
トワットファイルモールミルベンサムアウスタンメーソ
ノ諸賢輩出シテ公法ノ真理ヲ説キ尽シテ餘蘊ナキニ至ルト

雖氏偏ニ論理ニノミ止リテ多ク其実効ヲ見ザルナリト云
ハザル可カラズ歐洲ノ政府ガ互ニ公益公利ヲ謀ランカ爲
ニ公使ヲ派遣シ或ハ萬國博覽會ヲ開キ或ハ萬國戰規ヲ會
議シ萬國電信會議萬國貨幣會議等ノ如ク萬國ノ名称ヲ冒
スモノ日々ニ其多ヲ加フルト雖氏公法ニ至リテハ未タ互
ニ之ヲ法律視シタルニアラス中裁法ヲ設ケテ兩國爭議ニ
他國ノ裁判ヲ仰クコトアリシト虽氏未ダ必ラズシモ爭論
アル毎ニ此中裁法ニ依ラザル可カラスト定ムルニ非ザル
也其然ル所以ノ者ハ何ソヤ夫レ法律トハ主權者ノ令スル
所ニシラ之ヲ遵奉セザレバ必ス之ヲ責ムルノ成規アル者
ヲ云フナリ苟モ主權者ノ令アラズ又ソノ違犯ヲ責ムルノ

定規ナキ時ハ敢テ之ヲ適當ノ法ト見做ス_ト得ズ萬國公
法ノ如キハ即チ是ナリ各國ノ主權者中ヨリ選舉スルノ最
大主權者アリテ之ヲ令スルニアラス又公法ヲ違犯シタリ
トテ其罪ヲ問フベキノ法庭モ無ク其犯ヲ糺スベキノ罰モ
無ケレハ公法ノ社會ヲ緊束スル所ハ只々德義上ニ存シテ
法律上ノ約束ニ由ラサルナリ_{万国公法ハ一國ノ法律ノ如クナラズ是ニ違フト由ル之}
ヲ罰スル_{云フ}政_{故ニ}若シ社會ニ於テ此德義ヲ顧ミザル時ハ
公法ノ緊束_{キシ}ハ忽ニ其勢力ヲ失ヒ僅ニ學者ノ理論タルニ止
マル今ノ時ヲ以テ乃チ然リトスル也
萬國公法ノ名ヲ題シタル著者ニ於テコソハ高尚玄遠ノ正
理德義ヲ陳戒スレ_氏今日_{歐洲ノ}實況ヲ觀ルニ如何ノ正理

德義ノ其間ニ存スル者_ノ乎春秋無義戰トハ今日ノ歐洲
ノ事ニアラスヤ往時ハ姑ク之ヲ置キ近ク之ヲ今時ニ徵セ
ンニ_{破倫三世ガ}仏國ニ帝タルヤ其外國ニ交ル詭譎_{サギ}百出
推_{クシ}至ラサル所ナク其國ノ德義ヲ殆_ド地ヲ拂ハ_ハム
ルニ及ベリ然レ_氏仏國ノ榮利ハ此時ヲ以テ最モ大ナリト
シ公法モ敢テ其非ヲ咎メザリシナリ帝ニ代リテ歐洲ニ雄
飛スルハ日耳曼帝相ニ_ノ其權變詐_爲ハ敢テ_氏ノ故帝ニ下
ラス而シテ日耳曼ハ今日ヲ以テ日正ニ中スルノ榮利ヲ占
有シ同_{ジク}公法ノ是認スル所タリ英國ノ東洋ニ於ケル魯
國ノ亞_北ニ於ケル又皆然ラサルハ無ク其權變ノ政略ハ榮
利ノ因テ生スル所トナリ榮利ノ因テ生スル所ハ乃チ公法

ノ許ス所タルガ如シ然レハ則チ公法ノ理論ハ最早今日ノ
徳義ヲ貴バザル交際ニ於テハ必少ノ緊束ガニ社會ニ與フ
ルコトヲ得ザルノ實況ナリト云フモ不可ナカルベシ
殊更テ去年明治十年以來ノ魯土戦争ニ於テ魯国ガ自カラ認メ
テ戦理トスル所ノ公法ノ正理ニ適合スルト否トハ論ヲ俟
タズレテ公明ナレバ之ヲ擱キ夫ノ英国ノ政略トスル所ヲ
觀ヨ其初ハ十二介ノ声援ヲ張リテ土国ヲ煽動シ其戦ヲ開
クニ及ビテハ袖手シテ之ヲ傍觀シ土国ガ戦ヒ敗レテ国都
其守ヲ失フモ敢テ之ヲ救ハズ一旦城下ノ盟ヲ成スニ至リ
忽然其ノ和約ヲ非斥シ之ヲ歐洲ノ會議ニ附スベシト云ヒ
張リ魯土二国ノ媾約ニ干涉スベシト請求シ之ヲ肯セザレ

ハ直ニ戦ヲ開クベキノ氣勢ヲ示ス是レ公法ノ認メテ以テ
正理トナス所タル乎而シテ英国ハ断然コレヲ国是トシテ
毫末モ憚ルノ色ナキガ如シ其然ル所以ノ理ヲ求ムレバ輒
チ魯土ノ和約ニ英国ノ利益ヲ害スル條款アルヲ以テ英廷
ハ之ヲ是認スルコトヲ得スト云フニ出デス埃國ノ如キモ
其宰相ハ此和約ハ奥匈二国ノ利益ニ害アルヲ以テ之ヲ廢
棄スベシトハ云ヒ切リタリ以テ其約ノ已ニ利アレバ之ヲ
是トシ不利ナレバ之ヲ非トスルノ政略ニシテ是非ノ決ハ
只々其利如何ニ在ルヲ見ルニ足レリ是故ニ急ニ當レハ法
ナシト云ヘル法語ヲ翻案シ利益ノ爲ニハ理非ヲ問ハスト
云フヲ以テ現ニ英奧ハ今日ノ国是トナシ公法ノ論理ヲシ

テ之ニ従行セシムル者ナリト思ハザル可カラス斯クノ如
キ徳義ナキノ争利世界ニ立チ以テ各国ニ通交スル以上ハ
我國ニ於テモ亦同ジク我國ヲ利スルヲ心掛ケ一挙手一投
足ミナ只利益ノ在ル所ニ從テ政略ヲ立テ英魯ノ間ニ戦争
ヲ開クアラハ其機ニ乗ジテ云々ノ利益ヲ我國ニ占有スベ
シト望ムベシ徒ラニ萬国公法ノ論理ニ眩惑シテ其ノ占有
スベキノ利益ヲウシナフ可カラズ噫今日ノ争利世界ハイ
マダ万国公法ノ徳義ニ緊束セラル、ノ世界ニアラザル乎
第三十五章 国憲ヲ論ス
夫レ国憲ナルモノハ何ソ曰ク一国ノ大憲ニシテ國民ノ當ニ
遵守ス可キ所ナリ萬法ノ綱領ニシテ經綸ノ由テ起ル所ナリ

百廿八

国君之ニ由テ崇高國民之ニ由テ強大敵國之ニ由テ懐服凡
ソ天下治乱之ニ由テ決セサルハ莫シ是ヲ以テ坤輿ニ特立
シテ万国ニ雄視セント欲スル者偏ニ之ヲ確立堅守セシ
テ務メサル可ラス蓋人類ハ同等ナリ國民ハ同權ナリ國王
未タ必シモ國王ナラサルナリ賤民未タ必シモ賤民ナラサ
ルナリ惟其レ強弱賢愚ノ相霄壤スルヤ隔テ上下ノ勢ヲ爲
シ離レテ君臣ノ分ヲ爲スモ其權利未タ始ヨリ軒輕スル所
アラサルナリ雖然天下ノ廣キ万機ノ多キ未タ輒ク其權利
ヲ量リテ事コトニ之ニ別チ人コトニ之ヲ辨スル能ハス必
スヤ定法以テ之ヲ公ニシ明解以テ之ヲ審ニシ彼我權限ノ
在ル所ヲ區劃シ以テ永ク爭議ヲ防カサル可ラス於是カ權

制ヲ立テ以テ此志ヲ達セサル可ラス今英國憲ヲ畧述シテ
之ヲ論セントス
蓋英國ノ政法タル国王貴族平民ノ共参スル所ニノ彼我相
牽制均同シテ互ニ其弊ヲ矯メ復タ相犯シ相擾ルノ患ナク
且ウ三大政權ノ鼎立シテ相害セサルヤ紀綱大ニ張り教化
洽ク行ハレ上ニ暴政逆令ノ害ナク下ニ自由幸福ノ民アリ
以テ富强ヲ宇内ニ鳴ス是レ實ニ又三大法憲ノ能ク行ハル
ルニ由ルノミ何ヲカ三大法憲ト謂フ曰ク大法典權利請書
權利法案是ナリ而メ大法典ノ如キハ其下附實ニ十三世紀
ニ在リテ最モ舊ク最モ功用アルモノトス其全款六十三項
ニメ大要政府国王國會ヲ權限ヲ定メ而メ國民ノ三大自由

ヲ擁護スルヲ以テ本旨ト爲シ永世之ヲ奉レテ墮サス於是
乎英國ノ国体亦定マル然ラハ則チ国憲ノ立テサル可ラサ
ル已ニ明カトリ
夫我邦ノ国体タル固ヨリ宇内ニ冠絶シテ萬國ニ其類ヲ觀
ス冥々ノ間ニ於テ大ニ人心ヲ統御スルモノ亦大ナリ然ト
雖モ世運ノ改進黨ヲ民智ノ開達セル稍ク真理ヲ講明シ切
ニ英國人民ノ權利ヲ羨慕スルアリ真個ノ自由ヲ回收シテ
大ニ上下ノ權制ヲ明ニセンヲ欲スル者アルニ至ル此際ニ
當リ在上已ニ之ヲ洞見シテ万機改進ヲ事トメ以テ其意ヲ
滿タシメント欲スルモ其大本未タ確立セズンハ何ヲ以テ
民心ヲ保シ国安ヲ計ルヲ得ンヤ於是乎國家典廢ノ責一ニ

至尊ニ集マリ所謂藐々ノ上ニ寄セ茫々ノ間ニ在リ悵々ト
シテ茲ノ大機ニ参スルノ危勢アラントス豈亦憂懼スヘキ
ノ至ナラス耶苟クモ之ヲ救ハント欲ムハ特ニ上下ノ権制
ヲ明カニ定ムルニ在ルノミ此権制已ニ定マレハ之ヲ實踐
決行スル所以ノ道理ヲ講セサル可ニス而シテ其道只議院
ヲ與スニ在ルナリ議院ノ別タル各国或ハ小異ナキニ非ス
シテ其撰擧モ亦一ナラサレ氏其要ハ国俗民勢ノ如何ニ由
テ其権限ヲ寛洪自由ニシ其議員ノ如キハ財産權利ノ度ヲ
低フシ主トメ才幹ヲ公撰スルニ在ルヘシ雖然国憲ハ本ト
古來ノ舊慣故典ト一国ノ風俗好尚トニ淵源スル所ニシテ
未タ遽カニ一朝ニ之ヲ制定スヘキニ非ス英國ノ如キモ

国勢已ムヲ得サルノ日ニ定マリ米國ノ如キハ国亂ノ餘新
ニ政ヲ立ツルノ時ニ成リタルヲ以テ我國亦新ニ制定ス
ルハ真ニ一大事業ト称スヘキモ今日之ヲ定ノスンハ更ニ
至難ノ事ヲ釀成スルモ未タ計ルヘカラス今之ヲ編制セン
ト欲セハ上古來ノ詔誥法令ヨリ下民間ノ野乘稗史ニ至ル
マテ苟モ舊慣古俗ヲ徴スルニ足ルモノヲ蒐輯シ兼テ泰西
諸國ノ成規ヲ参考シ老鍊明達ノ諸士ヲノ之カ業ヲ成サシ
メサル可カラサルナリ

第三十六章 人權ヲ論ス

人世ノ社會ニ在ルヤ須臾モ離ル可カラザルハ夫レ人權乎
凡ノ法律ニ保護セラレ管轄セラレテ應分ノ安寧ヲ享有ス

ルニ當リ法域ノ中ニ一身ヲ進退シ起卧スルノ自由ヲ得サ
ル時ハ是コレヲ人権ヲ保ツ能ハズト云フナリ苟モ此ノ人
権ヲ失フコトアラハ天與ノ幸福ヲ失フト何ゾ異ナランヤ然
レトモ壓制ノ濁世ニ際ノ暴君汚吏ノ爲ニ此ノ人権ヲ掠奪
セラルヤ海ノ東西ヲ問ハズ古ヨリ皆然トス試ニ史乘ヲ
繙テ上下ノ乖離スル所ヲ見レバ其現像ハ變幻極リ無レト
雖氏其突因ハ概子人権ノ與奪ニ胚胎セザル莫レ例ハ英國
人民ガ英皇約翰ニ迫リ大典ノ鈐璽ヲ乞フテ以テ封建ノ阨
軌ヲ脱セシカ如キ查列斯第一世ニ捧グルニ權利請疏ヲ以
テレ國法ニ於テ英民固有ノ權利ヲ恢復セシガ如キ維廉第
三世ヲノ權利法例ニ於テ國民權利自由ヲ制定センメタル

ガ如キ其目的ハ人権ノ保有ヲ鞏固ニセンコトヲ冀望スルニ
外ナラサルナリ
夫ノ人権ハ斯ノ如ク至大至重ノ推理ナリト虽压之ヲ大別
スレバ第一身命保安ノ權利第二榮譽保有ノ權利第三身體
自由ノ權利第四奉教自由ノ權利第五所有ノ權利ノ五項ニ
過ギザルヲ以テ現ニ人民ガ今日ニ享有シマタ他日ニ享有
センコトヲ冀望スル所ノ權利ナリ是故ニ人権ノ伸縮ヲ觀察
センニハ先ツ英米二國ヲ以テ姑ク人権伸達ノ高點ニ達ス
ル者トシ我國武治ノ昔日ヲ以テ其屈縮ノ低點トシ第一ニ
ハ維新以後ニ於テ何等ノ進取ヲ今日マテニ成レタルカヲ
証シ第二ニハ將來ニ於テ又何等ノ進取ヲ要スベキ乎ヲ視

ト欲ス所有權ノ一項ハ前第十六章ニ掲ケタルヲ以テ茲ニ贅マス

第一身命保全ノ權利ハ夫ノ大典ノ專ラ英民ヲ利シ其流洑ノ遂ニ英米人民ヲシテ今日ノ幸福アルニ至ラシメタル所以ナレバ、實ニ人權ノ最大要點ナリト云ハザル可カラズ、試ニ其重要ヲ舉ケンニ、凡ソ軍律ヲ除ノ外ハ、審官ノ決ヲ經ルニ非レバ、輕重ノ罪科ニ処セラル可カラズ。一罪ノ爲ノニ身ニ体汚辱ノ刑ヲ再ビセラル_ル無ク。法廷ニ於テ自タラ已レニ利アラザルノ証言ヲ供スルニ迫ラル、_ル無ク。罪囚ハ公平無私ノ法官ヲノ敏速ノ吟味ヲ成サレムベク。已レニ不利ノ証拠ヲ排斥シ已レニ有利ノ証據ヲ召喚スルヲ得ベク、分疏ノ爲ニ辯護人ヲ使用スルヲ得ルヲ初トシ、過度ノ保責金ヲ

禁シ、過度ノ罰金ヲ禁シ、苛酷ノ取扱ヲ禁シ、幽囚ノ淹留ヲ禁ジテ、以テ罪囚ノ抑壓ニ罹ルヲ防守シ、凡ソ英米ノ人民ヲ禁獄シ、所有ヲ没入シ、其人自由ヲ褫奪シ、之ヲ遠謫シ、之ヲ処刑スルハ、獨リ國律ヲ以テスルノミトセリ、此國律ノ文字ハ大典ニ明書シ、其意ハ蓋シ法律ノ正中ニ依リ、忠信正直ノ善人ニ吟味セラレ、審判スルノ義ナルベシ、候ノ又有名ナルケントト氏ノ講議ニ拠レバ、若シ政府ニ於テ其兵權ヲ濫用シ、或ハ深刻ノ刑法ヲ設ケテ、不法ノ暴行ヲ成サントスルノ不幸アラバ、米國人民ハ保身權ニ由リテ已レヲ保護シ、將來ノ安寧ヲ謀ルガ爲メニ、官吏ノ權カヲ防ギ、渠ノ敵ヲシテ平穩ニ復サシムルノ權利アリ、若シ官吏コレヲ聽カズ、暴行ヲ施

サバ其官吏ハ国安ノ爲ニ罰セラレ、ノミナラス、併テ償害
ノ責ヲ免レザルベシト迄ニ説出シタリ。又ミケールフオス
トル氏ハ、人間ノ一身ヲ保護スルハ天法ナルガ故ニ、若シ他
人ノ我ヲ害セントスルニ遇ヘバ、扞抗スルノ理アリト云ヒ
テ、鬪殺ノ謀故殺ニ比スヘカラサルヲ論辨シ、之ヲ人權ノ一
部トナセリ。我邦ノ如キ武門ノ治世ヲ顧シ、法律ハ君主ノ私權ニ屬シ、權公、所謂ル思
召ヲ以テ臣民ヲ死刑ニ處シ、所有ヲ没入シ、吏ニ臣民ヲシテ保身ノ塞墨ヲ得シメ、法廷
ニ於テ罪囚ノ口供ヲ得ルガ爲ニ、苛酷ノ拷問ヲ以テ、已ニ不
利ノ証言ヲ成サシメ、罪囚ヲ歲月ノ久キニ淹留シ、苟モ官吏
武士ノ壓制ニ抗對スレバ、輒チ極刑ヲ以テ徒黨ヲ罰シ、一身
ヲ保護スルノ鬪殺モ、謀故殺ニ比^{ヒトシ}キ等ノ有様ニテアリキ、維

新以後ニ於テ著ク刑法ヲ寬ニシ、人ヲ罰スルニ国律ヲ以テ
シ。罪犯ノ爲ニ所有ヲ没入セシ、斷罪、依證ノ律ヲ定メ、審判ノ
敏速ヲ令シ、上告ノ法ヲ設ケ、囚獄ノ制ヲ改良シテ、罪囚ヲ憫
ミ、保責ノ例ヲ制定シテ、過度ノ保金ヲ禁シ、又タ国事犯或ハ
百姓一揆ヲ處スルニ、寬刑ヲ以テシ、僅々十年間ニ於テ、歐洲
數百年ノ改進黨ヲ舉行シ、以テ我ガ人權ノ最大要部タル保身
權ヲ今日ニ進取セシムルニ非スヤ、然レ、氏、審判ハ法官ニ出
テ未タ審官ノ決ニ出テザルナリ、罪囚ハ未タ辯護官ヲシテ
代言セシムルヲ得サルナリ、斷罪、依證ノ律アリト虽、氏、罪囚
ハ飽マデモ我ニ利アルノ證據ヲ得ルニ容易ナルベキ乎、拷
問ノ制ハ明クニ禁示セラレテ更ニ舉行セラレタル乎、夫各

自ハ居宅ハ其城郭ナリト云ヘル保身推ノ法語ハ實地ニ履
踐セラレタル乎論者モ或ハ其解ヲ與フモ苦レム所アル
ヘレ
第ニ榮譽保有ノ權利モ亦タ此レク人推ノ一要部タリ何ト
ナレハ榮譽ハ人生ノ所有物ニ若他人ノ爲ニ其榮譽ヲ毀
傷セラレル事アレバ輒チ直ニ我が享有スベキノ利益信任
等ヲ失ヒ甚シキハ其身ヲ社會ノ間ニ立ル能ハザルノ危
難ニ至ルベケレバナリ是故ニ開明ノ國法ニ於テハ必ラス
譏謗律ノ制アリテ以テ衆庶ノ爲ニ其榮譽ヲ保有シ之ヲ口
陳譏謗ト筆記譏謗ノ二者ニ分チ筆記ノ害ハ口頭ニ比スレ
バ更ラニ甚レトシ凡ソ文章圖画隱謎等ヲ以テ政府人民ヲ

誹謗スルモノハ即チ之ヲ譏謗ト名ケ被害者ガ之ヲ告グル
ニ遇ヘバ法廷ハ之ヲ治ムルニ當リ獨リ被害者ノ爲メノミ
ナラス其ノ罪ハ實ニ公安ヲ妨害スル者ト見做スニ至レリ
然レモ此ノ譏謗律ノ目的ハ固ヨリ各自ノ榮譽ヲ保護スル
ニ出テ毫モ言論ノ自由ヲ扞制スルニ非ザレバ米英ニ於テ
ハ各自ノ人民ハ何事ニ限ラス其思フ所ヲ自由ニ言論シ自
由ニ筆記シ自由ニ刊行スルヲ得ベシ但シ此權利ヲ誤用ス
レバ責ハ其人ニ歸スベシ法律ハ決シテ言論ノ自由ヲ扞制
シテ不可ラズト云フヲ以テ憲法ノ主義ト成シ言論ノ自由ヲ
榮譽ノ保護ト並ヒ行ハレテ相悖テザラシムルヲ要旨トセ
リ譏謗律ハ斯ノ如ク榮譽ノ爲ニ緊要ナリト虽モ事實ハ

有無ハ問ハズシテ、謔、謔ハ罪ヲ治ムルノ主義ハ海ノ東西ニ
於テ或ハ其主義ノ言論ノ自由ニ撞著スルガ如クナルヲ怪
シムノ論者ナシトセズ、是レ未タ保榮ノ貴重ヲ知ラサル者
ナリ、若シ謔、毀ノ事ニシテ果シテ刑法ニ觸ル、ノ惡アラバ
乃チ之ヲ法廷ニ告發シ、先ツ其罪ヲ治メシムルノ制アルニ
ヨリ、我邦謔、毀律第七條ニ曰ク、若シ謔、毀ヲ受ルノ事、刑法ニ
者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ、謔、毀ノ罪ヲ治ム
ルコトヲ中止シ、以テ事案ノ決ヲ候テ其ノ被告ノ罪ニ坐ス
人ノ時ハ、謔、毀ノ罪ヲ論セシムル事、刑法ニ觸レシテ、軍ヘニ
ホ謔、毀ノ法律ハ必スシモ、民法ニ觸ル事、刑法ニ觸ル事、軍ヘニ
罪ヲ治ス、法律ハ必スシモ、民法ニ觸ル事、刑法ニ觸ル事、軍ヘニ
然レ、民法若シ法廷ニ於テ刑法ニ觸レザル事ヲモ、軍ヘニ
謔、毀ニ非ストセバ、人生ノ私事私行ハ、軍ヘニ、新聞紙ニ摘發セ

ラレ、新聞紙ハ衆庶ノ復仇場タルヲ免レザルベシ、登社會ノ
公安ニ害アリト云ハザルヲ得ズヤ、然リト雖、民法若レ一概ニ
此理ヲ墨守スレバ、一方ニ向テハ、遠ニ事實ヲ記載スルノ自
由牽制スルノ弊害ヲ生スルニ由リ、現ニ新約克ノ改正憲法
ニ據レハ、凡ソ謔、毀ノ罪ヲ治ムルニ當リ、其事、實ヲ審官ニ證
明スルヲ得ベシ、若シ審官ニ於テ謔、毀ナリト訴ヘテ、レタル
事柄ハ、實事ニシテ善意ヲ以テ公平ノ処分ヲ得セシメンガ
爲ニ之ヲ刊行シタリト見定ムル時ハ、無罪ナリトスベシト
アリ、又米國法ニ於テモ、政府、議院、大統領ヲ謔、毀スルハ、犯罪
タルニ付キ、其被告ハ、糾問ノ時ニ於テ謔、毀ナリト訴ヘテ、
ハタル記載ノ事實ヲ証明スルハ、權利アリトスト制定シ、之

ヲ告發ト名ケ斯ル場合ニ臨ミテハ合衆國人民ノ通權ナリト見做レタリ蓋シ此有無ヲ論ズルノ如何ニ関シテハ識者モ未ダ一定ノ見ニ歸セズト雖凡記載ノ事ハ衆庶或ハ社會ヲシテ公平ノ処分ヲ得セシメシカ爲メノ善意ニ出ラ所謂ル一人惡ヲ摘發シテ衆人ノ益ヲ謀ルノ目的ニレテ若モ事實ニ違フ所ナクハ必ラバンモ之ヲ他ノ社會ニ利益ナキ一家一身ノ私事ヲ訐クノ惡ト同視スベカラザルガ如シ第三身體自由ノ權利ハ風ニ英氏ガ諸國ニ先チテ保有セシ入權ニシテ則チ保身律ノ行ハル所以ナリ此權ハ身命保安ノ權ニ於テハ法律ヲ以テスルニ非ラザレバ各自ノ自由ヲ褫奪ス可カラズト定ムルガ如ク特ニ保身律ヲ以テ漫ニ

拘留禁獄ノ淹留ニ羅ルノ禍ヲ防守スル者ナリ凡人身ノ自由ヲ制限スルハ其場所ノ如何ヲ問ハズ其方法ノ如何ヲ論ゼス法律ノ精神ヨリ視レハ乃チ禁獄ナルハミケノ説ト是故ニ國事犯及ビ大罪ヲ除クノ外ハ現行犯罪カ或ハ明瞭ニ指名セラレタル捕縛狀ニ由リテ逮捕セラル、ニ非ザレバ直ニ不正ノ所業ナリトシテ保身律ニ覆庇セラル、ヲ得ベシ抑モ保身律ハ英國ニ於テ大典ニ引續キテ設立シタル氏兔角ニ政權ニ壓セラレテ徒法ニ屬セシヤ又シ女皇厄利沙戰エリサハスノ治世ニ際シ權臣等ガ擅マ、ニ不正ノ禁錮ヲ行ヒタルヲ患ヒ普通法裁判所法官等ハ宰相ニ建言シテ此律ヲ履踐セシメタルガ當時コノ保責ヲ許否スルノ權ハ法官ノ手ニ

歸セシガ故ニ或ハ行ハス或ハ然ラズナタルス第二世ニ至リ
テ初メテ成法ト成リ保責ニ任セント欲スル者ハ昏面ヲ以
テ法官ニ乞フニ保身狀ヲ與ヘントヲ以テシ法官モン其ノ
乞ヲ拒メハ停職ノ罰ヲ受クベシト定メ又監吏モンコノ保
身狀ヲ拒ミテ囚人ヲ保責ニ引渡サシレバ千圓ノ罰金ヲ科
スベシト定メ以テ人推ノ爲メニ不朽ノ鐵壁ヲ今日ノ英米
ニ現存セシムルヲ得タリキ
夫ノ保身律ヲ以テ人身自由ノ權利ヲ保護スルガ上ニ英米
ニ於テ海陸軍務カ或ハ法律ヲ以テスルニ非ザレバ曾テ其
国人ヲ国外ニ驅逐スルヲ許サズ我國ニ居住スルハ即チ我
ニ固有ハ人推ナリト云フヲ以テ普通ノ法語ト爲スニ至レ

リ又中古ハ英皇ノ勅許ヲ得ルニ非ザレバ其国人ノ海外ニ
出ルヲ禁止シタルヲアリツレニ顯第ニ理大典ニアリテヨリ
以來ハ之ヲ廢シ戰時ヲ除ク外ハ都テ英民ノ海外ニ出入
スルヲ自由ニシタリ是等ノ諸政ハ皆自体自由ノ權利ヲ保
護シテ今日ノ幸福アルヲ得セシムルノ所以ニアラスヤ我
邦ノ昔時ヲ見ルニ身体自由ノ權利ハ十分ニ人民ノ享有セ
シ所ニアラス獨リ保責ノ行ハレサル而已ナラズ法吏ノ愛
憎ニ由リテ或ハ幽囚ノ時間ヲ永遠ナラシメ或ハ禁獄ノ場
所ヲ轉移シ保身律ノ如クハ夢ニダモ冀望スルヲ得サル所
ナリキ又遠流追放ノ刑アリテ国人ハ輕罪ノ爲ニモ容易ク
其故郷ヨリ驅逐セラレテ再ヒ足フ父母墳墓ノ地ニ容ル

ヲ得ズ而シテ法官ノ目ヨリスレハ五ニ管轄外ノ地ヲ以テ
罪惡ノ徒ヲ居住セシムルニ適當ナリト思惟セシガ如シ又
寛永ノ一令ヨリシテ我人ノ海外ニ出ルヲ禁止シ之ヲ犯
セハ罰スルニ死刑ヲ以テシ又国内ノ諸所ニ関門ヲ設ケテ
行人ノ出入ヲ査シ遂ニ隣邑ニ赴キ隣境ニ到ルニモ必ラス
君主官吏ノ免許ヲ請ハザル可カラザルニ至レリ是レ豈ニ
身体ノ自由ヲ得タリト云フベケンヤ維新ノ初ヨリシテ関
門ノ法ヲ廢シ海外ニ出ルヲ許シ幕政ノ末路ニ於テ已ニ此
由ヲ得タルハ十律例ノ改正ヲ以テ初メニ追放ノ刑ヲ止メ
年以來ノ事ナリ例次テ又遠流謫徒ノ刑ヲ止メ之ニ代ルニ懲役ノ制ヲ以テシ
遂ニ今日ニ及ビテハ夫ノ保身律ニ根據シテ保釈條例ヲ制

定シ罪囚ヲシテ無前ノ自由ヲ享有セシムルニ至レリ
斯ノ如ク身体自由ノ権利ハ明カニ進取ノ現相ニ在ルガ故
ニ設ヒクト英米ニ比較セバ或ハ数歩ヲ讓ルノ實ナキニ非サル
ベシト雖氏若シ之ヲ歐洲大陸ニ比較スレバ敢テ甚シキ選
庭ナカルベシト思ハル只要スル所ハ之ヲ履踐スルノ際ニ
於テ其疏通ト阻塞トノ如何ヲ觀察シテ之レガ優劣ヲ判ス
スルニ在ルノミ
第四奉教自由ノ権利ハ他ノ三種ノ如ク身体ニ直接スルニ
非スト虽氏其事タルヤ實ニ靈魂ノ安住ニ關係スルカ故ニ
一步ヲ進入シテ論到スレバ精神ノ自由ハ更ニ形骸ノ自由
ヨリモ重キ所アリト云ハザル可カラス是レ英米ニ於テ最

モ奉教ノ自由ヲ以テ人権ノ一要部ト認ノ歐ノ大陸諸州ニ於テモ多少コノ自由ヲ貴重スル所以也。天正慶長ノコロヨリ耶蘇教ヲ国禁トシテヨリ元和寛永ニ至リテ尤モ嚴酷ノ刑ヲ犯禁ノ徒ニ施シ之ヲ墨守セシ二百餘年ノ久シキニ及ベリ此際ノ実相ヲ論スルハ神儒二道ノ如キハ祭祀ノ典ヲ存シ學問ノ重ニ任シタレ氏真正ノ教法ト云フベキ者ニ至リテハ只獨リ仏教アリシノミナルガ故ニ行政權ヲ以テ外教ヲ禁絶セシハ恰モ仏教ノ爲ニ特別ノ保護ヲ與ヘ人民ヲ強テ其範圍中ニ居ラシメタルガ如シ維新ヨリシテ神教ナルモノ初メテ世ニ行ハレテ教法ノ新面ヲ現ハシ肩ヲ仏教ニ比ベント欲スルノ狀ヲ示シタレ氏其勢ハ固ヨリ他ノ

舊教ノ人心ニ浸染セシノ歲アルニ若カズ而シテ外教ハ開港以來稍々其端ヲ内國ニ求メ初メノ程ハ政府ニ於テ之ニ干涉シタリシガ明治五年ニ於テ禁教ノ制札ヲ發シテヨリ復タ日本ノ成法中ニ外教ヲ禁ズルノ明文アルヲ見ズ日本人民ハ神教ヲ奉ズルトモ仏教ヲ信ズルトモ或ハ外教ヲ喜ブトモ實ニ其ノ好ム所ニ任セ苟モ其ノ徒ガ奉教ノ間ニ於テ國家ノ法令ニ違背セザル以上ハ政府ハ更ニ其ノ政權ヲシテ此ノ人権ヲ妨碍セシメザル也論者中或ハ法令中ニ葬式ハ之ヲ神佛二道ノ教師ニ托スベシトアルニ由リ政府ガ之ニ反スルノ徒ヲ問フニ違令ヲ以テスルヲ認メテ未ダ奉教ノ自由ヲ十分ニ與ヘザルヲ責ムルモノアリト雖氏此一

事以テ必スレモ政府ヲ煩ハスニ足ラズ若シ之ヲ將テカノ
加持カ^{カトリック}ヲ擯^{セツワイット}ル日斯威得ヲ放逐シ或ハ邦教ノ徒ニ非ザレ
バ官吏タラレメズ代議士タラレメズト制定スルガ如キ歐
洲大陸ノ諸国ニ比スレバ孰レヲカ勝レリトスル乎吾輩ハ
固ヨリ奉教自由ヲ冀望スルノ論者ナルニ付キ葬祭ノ制モ
其ノ一日モ早ク廢止セラレシト欲スレバ若シ行政ノ目
的ニ於テ止ムラ得ザルノ事由アリテ然リトセバ寧ロ其自
由ヲ不問ニ置クヲ可ナリトセン乎
右ノ觀察ニ由リテ照考スレハ人權ノ最要部分タル身命榮
譽ヲ保安シ身体奉教ヲ自由ニスルノ綱目ハ現ニ吾人が今
日ニ享有スル所ニシテ敢テ歐洲大陸ノ諸国ニ對シ霄壤ノ

差異ヲ見ル昔時ノ如クナルニハアラズ何ゾ必シモ外人ヲ
シテ日本人ニ人権ナシト云ハシムルヲ要センヤ希クハコノ
觀察法ヲ擴充シ外人ヲシテ我^レ國法ニ服從セシムルニハ人
権ノ一部ニ就テ將來ニ進取スベキハ如何ノ點ナル乎ヲ討
究シ之ヲ進取スルノ方法ヲ工夫セシムルハアルベカラス
第三十七章 埃及ノ古律ヲ論ス
法律ヲ區分シテ三部トス曰ク太古律中古律近世律是ナリ
太古律又分テ五部トス曰ク埃及律^{リユカ}希伯律印度律希臘律羅
馬律是ナリ
太古邈トシテ史乘傳ハラズ制度文物ノ淵源得テ知ル可カ
ラス埃及以前文物ノ以テ徵ス可キナシ故ニ律法ノ沿革ヲ

記スル者大概筆ヲ此ニ起セリ蓋シ埃及太古ノ盛代今ヲ距
ル幾ンド五千有餘年各契以テ考フ可キ者少シ加之其言語
文章今日ニ於テ解レ得ザル者亦少トセバ故ニ今其一班ヲ
記スルノミ希臘ノ史家希羅多達斯卡埃及史記ニ曰ク此國
文物夙ニ開ケ奇事靈跡ノ多キ殆ント諸國ニ冠タリ其工作
傳テ今ニ存スルモノ實ニ人ノ意想ノ外ニ出ルモノアリト
近クハ千七百年代ヨリアルガヒユウカイヤウアムペール
ノ輩親ラ此地ニ遊ヒ其趾蹟ヲ發見セシ者尠カラズ特ニ那
破烈翁カ埃及ヲ征スルヤ學士数名ヲ遣ハシテ大ニ所在古
代ノ文物ヲ探知セシメ其帝タルニ及テ勅シテ之ヲ編述セ
シメタリ其存今存在ス爾後今日ニ至ルマテ埃及古學家ノ

發見スルモノ頗ル多シ其言フ所皆希氏數千年ノ前ニ在テ
之ヲ諸國ニ冠タリト謂ヒ今人モ亦數千年ノ後ニ在テ未タ
嘗テ見ザル所ノモノヲ發見ス當時ノ開明以テ想フ可シ
抑埃及ノ興ル其始ニ方テ政令僧侶ヨリ出テ郡縣ノ守之ヲ
僧侶ニ任シ祭神ヲ以テ國ノ主宰トス所謂神政ナル者ニシ
テ亞刺比亞古代ノカリフ及ヒ印度婆羅門ノ政ニ髣髴タリ
而シテ史家ノ此時ヲ記スル者概ネ皆曰フ有形ノ工作ニ精
クシテ無形ノ學理ヲ知ラズ木石禽獸皆彼カ神トスル所ナ
リ其昏迷如此シト今西書ニ就テ之ヲ考フルハ此言タル
唯其賤民ノ狀態ヲ謂フノミ僧侶ノ如キニ至テハ然ラス學
術原理ヲ發見シ其說ク所粗小衆神教ニ似タリト蚩氏其主

ホロリテイスム

義ハ原ト一神教タリ但其教旨ヲ一族ニ傳ヘ秘シテ他ニ知
ラシメザリシノミ彼ノ摩西ピタゴール布羅敦ノ輩此邦ニ
到リテ其教ヲ受クル豈ニ此木石偶像ノ教ナランヤ以テ其
無形ノ理ニ暗カラザリシヲ證ス可シ然レモ其弊ヤ終ニ僧侶
ノ擅制トナリ民之ニ服セザルニ至リメ子イメ子スニ作ル此
時回教ヨリ六十年前ナル者アリ遂ニ此制度ヲ顛覆シテ新
ニ政府ヲ立テタリ是ヨリ政令全ク教門ノ外ニ出テ僧侶ハ
宗教學問ノ範圍ニ歸シ文化日ニ進ミ工業大ニ開ケタリ有
ナル等ノ方塔皆此時ニ成然ルニ亞細亞ノ蕃民侵掠シテ埃及
ヲ亡スニ及ヒ文物之カ爲ニ其進歩ヲ止メタリ然レモ數十
年ノ後アモジスナル者起テ夷族ヲ滅シ終ニ埃及王室ヲ回

復レタリ爾後數世漸ク進歩シラムセス大帝一及テ大ニカ
ヲ国事ニ盡シ工業文物ノ進歩頗ル著シ其カルナク宮ノ如
キハ壯麗穹隆ナル古今未タ其比ヲ見バト云フ帝ハ工商ヲ
勸励シテ未タ以テ謙タレリトセス孜々トシテ人民ノ幸福
ヲ祈リ大ニ弊政ヲ釐革シ王室中興以テ降掌握セシ專權ヲ躬
自ニ解弛シテ民利ヲ謀リタリ是時ヲ指テ埃及太古ノ盛
代トス其人口大約六七百万内外ノ貿易交通日ニ繁ク世界
文明ノ集點タリ當時国内分テ三十六郡トシ郡毎ニ令一人
アリ郡又分テ若干縣トス以テ政令ヲ通国ニ施ク此時已ニ
成文律法アリ今世所謂埃及古律ナル者ハ即チ此律ト古碑
堂壁ニ存セシ記録トヲ曰フナリ惜ラクハ其完篇ヲ傳ヘズ

僅ニチオドル希臘多達斯等ニ就テ其一班ヲ知ルヲ得ルノ
當時社會ノ制度民平等ナラズ分レテ四族タリ學問技藝ヲ
講シ教儀ヲ司リ審理徵租衛生等ノ事ヲ管スル者之ヲ僧族
トス而シテ其要務ハ皇族ノ僧タル者之ヲ掌ル其推強ク家
富ムリ故ニ帝室ノ權ト殆ント相權衡シテ互ニ其專恣ヲ制
抑スルヲ得タリ其帝政苛虐ニ流レズ善ク波斯國ノ轍ヲ免
レタル者ハ即チ之カ爲メナリト云次ニ國安ヲ保持シ外寇
ヲ扞禦スルニ任スル者ヲ兵族トス租稅ヲ除シ商工ヲ營ム
ヲ禁シ勤勞賞罰等各其特法アリ常備兵員凡十八方アリシ
又農族工族アリ農族ハ所有地ヲ耕シテ農產ヲ務メ收穫ノ

一部ヲ貢ス工族ハ百工商賈ナリ其所得ノ一部ヲ以テ公費
ニ充ツ以上四族世々相傳ヘテ各其分ヲ易ヘズ彼斯婆羅門
教徒ノ「ブラマヌ」シヤトリヤ「ガイシヤ」スードラノ如キ「亜刺比」
「亞」ノ兵僧農ノ如キノ類ト粗ホ同シ蓋シ是レ東洋太古ノ通
例ニシテ政令抑壓ニ人民卑屈ニ流ル、モノ職トシテ是風
ニ因ラザルモノナレ然レモ學術物産ノ進步セシハ其實如
此ク自然ト分業ノ法ヲ爲シ各專ラ父祖ノ業ヲ繼キ敢テ他
ヲ顧ミザルニ由ルト謂ハザルヲ得ズ
郡毎ニ審院アリ一院ノ法官三十員皆公撰ニ係ル而シテ帝
ハ之ニ関涉セズ但法官職ニ就テ帝ノ令ヲ奉ス可キ旨ヲ宣
誓スト虽モ令若シ不正ナリト見ル時ハ之ヲ奉セザルノ權

アリ且法官皆采邑アリテ家富ミ加ルニ年俸若干ヲ受ク是
ヲ以テ頗ル獨立ノ地位ヲ保テリ其法廷ノ式タル對質辯論
セシメズ兩造^{原告}出ス所ノ文書ヲ以テ審理ス特リ審理ノ
ミナラズ判決宜告モ亦口陳セズ法官ハ密カー是非曲直ヲ
議評シ具長官決ヲ告ルニ暗號ヲ以テス其式タル頸ニ金索
ヲ以テ寶石ノ一小片ヲ懸ケ以テ理直ナルノ表像トス而シ
テ其原被理直ナル者ノ一方ニ向テ其石片ヲ廻ハス是レ判
決ヲ告ルノ式タリ亦古代ノ一奇事ト謂フベシ
民法○親子ノ權義ニ古代諸邦ノ制度ヲ見ルニ往々親子ノ權
強ニ過キ子タル者ノ權甚タ弱シ特リ埃及ハ然ラス親子ノ
權義輕重一方ニ偏セス親子各相尽ス可キノ義務アリ頗ル

其宜キヲ得タリト云フ可シ希羅多達斯曰埃及ノ制養親ノ
義務男子ニ無クシテ女子ニ在リト甚タ異シム可シ近世學
士ノ說ニ埃及古代ノ制男子タル者ハ其種族^前ニ從テ或
ハ兵トナリ或ハ僧トナリ長シテ能ク若親ノ側ニ侍養スル
ヲ得ル者鮮ナシ故ニ此法アリ蓋シ希氏カ所謂ル養親ノ養
ハ侍養ノ義ニシテ衣食ヲ給養スルノ義ニ非ス字義ノ訛傳
ナラト此說或ハ然ラニ婚姻埃及ノ俗最モ婚姻ヲ重シ法
典大ニ之ヲ保護セリ又父タル者女子ニ嫁資ヲ給シ良夫ヲ
求メテ嫁ヒシメ古代東洋一般ノ風ナル男子ノ女ヲ買フノ弊
習ナシ然レトシテ^夫子^ナク^レ先^夫死^スル^ノ時^ハ夫^ノ兄弟^其寡^婦ヲ娶^ルル^ノ義^タリ^是レ^其血^統ヲ^絶ノ^風アリ希伯印度ニ此法アリシ

ハ蓋シ此ニ淵源セルナリ親族結婚ノ禁唯直系ノ親ノ間ニ
此禁アルノミ又血統ハ男子ヨリ傳ヘ女子ハ血統ニ関セス
故ニ賣奴ノ擧ケタル子ト云ヘ氏適正ノ子ト爲シ毫モ母親
ノ如何ヲ問ハス當時ノ説ニ樹木果実ヲ結フ者ヲ雄トナシ
実ラサルヲ雌ト爲セリ蓋シ血統ハ男子ヨリ傳フト云フト
其見ヨ同フス又一奇事アリ古ヘノ史家傳フル所夫婦女ヲ
先キニシ男ハ女ニ隨フヲ以テ法トス夫婦交際ノ權婦之ヲ
專握スト近世ノ學士ハ往々之ヲ排シテ謬傳ナリトシ婦ノ
權アリト云フハ日用家事ニ止ルノ謂ナラント云ヘリ然レ
氏史家ノ傳フル所其憑證ナキニ非ス敢テ非ナリト云フ可
ラス契約法 貸借契約必ス文書ヲ用フ若レ文合アラサル

中ハ被告人宣誓シテ之ヲ證ス貸借息銀アリ但シ幾ク年ヲ
積ムモ息其母ノ額ヨリ多キニ至ルヲ許サス又抵償品ヲ以
テ貸借スルノ法アリ抵償品ノ最モ貴キモノハ祖先ノ死屍
藥物ヲ以テナリ按スルニ負債辯セステ祖先ノ体ヲ奪ハ其
テ保存スル一家ノ耻辱之ヨリ大ナルハナシトス其
他負債者ヲ保護スルノ法古代諸國ノ風ニ異ナリ當時諸國
未開ノ俗ヲ見ルニ概テ負債者ノ自由ト肉身ハ債主ノ抵償
タリ特リ埃及ニ於テハ負債者ノ身体ヲ侵スヲ許サ、リシ
ト云フ
刑法○立法者ハ罪惡ノ源因タル無産無籍ノ徒ヲ禁シ大ニ
国安ヲ保護セント欲シ國民ヲシテ年々姓名職業財産入額
等ヲ地方廳ニ報告セシメ若シ之ヲ怠リ或ハ実ヲ以テセザ

ル者ハ罰スルニ死刑ヲ以テセリ尊屬親ヲ殺ス者ハ及テ以テ体部ヲ刺シ柴薪ノ上ニ坐セシメ生ナカニ之ニ火ハ父母子ヲ殺ス者ハ三日三夜兀坐其死屍ヲ抱カシメ官人之ヲ臨監シテ姑クモ解罷スルヲ許サズ棄兇ヲ嚴禁ス但シ罰法ナレ故殺謀殺ハ被害者ノ種族如何ヲ論セス奴隸ナリト云ヘ氏均シク皆死ニ処ス人ノ賊ノ爲ニ殺サレントシ若クハ危嶮ニ臨ムノ際之ヲ傍觀シ又ハ救フコトヲ肯セザル者ハ兇行者ト其罪ヲ同シク凶罪犯ヲ知テ官ニ告発セサル者ハ笞刑ニ処シ三日間一室ニ錮シ飲食ヲ禁ス凡テ獸畜ヲ殺ス者豫謀ニ係ル者ハ死ニ入ル孕婦ヲ斬ルヲ禁ス是レ其孕婦ハ罪アリト雖氏胎子ニ罪ナリ刑二人ニ及フノ理ナキヲ以テナ

リ仏蘭西刑法第二十七条ハ此法ニ據リシ者ナリト云フ田
刑法第二十七条ニ曰ク死刑ノ言渡ヲ受ケシ女若シ懐胎ナリト言ヒ其証認明白ナル時ハ出産ノ後ニ至テ其刑ヲ受ケシトハ可犯姦ハ姦夫笞一十姦婦ハ割ス凡ソ人ヲ誣告スル者告人ニ反坐ス偽誓及ヒ詐欺皆死ニ処ス度量ヲ偽造スル者ハ兩腕ヲ斷ツ宝貨証昏并官私印ヲ偽造スル者及ヒ恣マニ官令公則ヲ變易スル者ハ同上兵卒戰鬥ニ臨テ遁逃スル者ハ汚辱ノ刑ヲ加ヘテ諸軍ニ徇フ因ノ秘事ヲ敵ニ密告スル者ハ古ヲ截ル拷訊ノ法アリト虫氏東洋諸国ノ如キ残酷ヲ極ムルニ至ラス
以上埃及太古民法刑法等ノ今日ニ傳フル所ノ大略ナリ

明治十二年八月三十日版權免許
今十三年十二月出版

定價金壹圓六十錢

編輯人

東京府平民

吉本

達

神田區

小川町四十一番地

出板人

全平民

竹下人并

全區

今川町三丁目九番地

發賣人

全平民

水野慶次郎

日本橋區

通油町十四番地



